

# 部 報

令和3年~令和4年 No.65

北海道大学馬術部



---

---

## 目次

---

---

巻頭言.....	井上 京	3
指導部報告.....		6
活動報告.....		11
調教報告.....		23
北鷹号.....	武井 陸、若林 壮真	23
北稜号.....	田中 沙季	28
北響号.....	北出 右京	30
北汐号.....	植田 咲喜	32
北叡号.....	山中 竜馬	35
北琉号.....	坂本 信仁	37
北離号.....	井上 芽依	39
北陽号.....	石田 隆悟	42
入厩報告.....		45
北駿号.....	武井 陸	45
北蒼号.....	早貸 虎之介	46
ディアード.....	阿部 悠和	47
セノーテ.....	武井 陸	48
離厩報告.....		49
ファンキーボーイ.....	駒田 智美	49
ノーステア一周忌追悼特集.....		50
放牧用小パドック設置の経緯、完成報告.....	阿部 悠和、小谷 慧	62
北海道大学水産学部馬術部.....	北藤 翼	63
卒部にあたって.....		64
部員紹介.....		69
現役部員名簿.....		81
後援会会報.....		82
編集後記.....		84

---

## 巻頭言

---

「怒って」はいけない。効果的に「叱れ」。

部長 井上 京

人は喜怒哀楽の動物です。外からの刺激や自分自身の記憶に反応し、笑ったり、悲しんだり、怒ったりするものです。それをついつい口答えしたり、喧嘩になったりしてしまいます。

犬や猫も、表情豊かな動物です。特に犬は、体全体で感情を表現してくれるだけでなく、顔にまで表情がでています。

では馬はどうか。犬ほどに明瞭ではありませんが、やはり喜怒哀楽、すなわち感情がありますね。部員の皆さんが知っているとおりです。放牧に出してやった時は、駆けたり跳ねたりして嬉しさを身体中で表現する時がありますし、馬どうして遊んだりグルーミングしていることもあります。楽しかったり気持ちよく感じたりしているのでしょう。飼付を待つ時には「早く頂戴」と前かきをして欲求を伝えますし、何かに驚いた時には頭を高く持ち上げ、耳を揃えて警戒します。恐怖におののく時には、体中の筋肉を緊張させて危険を回避しようとします。

でも、馬の感情が、犬のように分かりやすければ、馬に触れることも乗ることも、あるいは調教を進めることも、もう少しやりやすいのに、と思うことがあります。初めて馬に接する人にとって、ヒトとは違う動物であるウマの表情や感情を捉えるのはなかなか至難です。それでも毎日接していると、馬が何を欲しているのか、何を感じ、どんな気持ちでいるのか、なんとなく判ってくるのが楽しみです。

さて感情があればその衝突もあります。私なんか、いまだに配偶者との衝突が絶えません。だいたい「学習」しましたのでかなり回避できるようになりましたが、それでもつい、頭に血が昇ってしまい、売り言葉に買い言葉となってしまいます。少し時間が経つと反省しきりです（配偶者がこれを読むことはないと思って書きますが）。

感情をコントロールするには「6秒ルール」とか「6秒ガマン」といわれる方法があります。激しい怒りも、感情のピーク6秒を過ぎれば、衝動的な行動を起こしにくくなるそうです。この6秒、なんとか我慢すべきなのでしょう。すこし冷静になってから、やおら次の一手や一言を考えるべき、ということのようです。きっと少しの間を取ればいいのでしょう。でも、凡人には難しい。なかなか感情はコントロールできないものです。

馬がいうことを聞かない時、指示に従わない時はどうすればいいでしょう。馬にも感情があって、人の指示どおりに動きたくない、やりたくない、ということが当然に発生します。その時、つい感情的に「怒って」いませんか。でもヒトの怒りは、ウマには恐怖としてしか伝わっていない可能性があります。どうして人が「怒って」いるのかが、馬にはわからないことがほとんどではないか。感情に任せて「怒って」も、あなたの馬はなぜ怒られているのかわからず、むしろ恐怖心を持ってしまい、馬と人の関係は負のスパイラルに陥ってしまいかねません。

私の2年先輩の西川理一さん（S55卒）は、新馬調教の時にこんなことを言っていました。

「怒って」はいけない。効果的に「叱れ」。

「怒る」のは感情の発露ですが、「叱る」のは理性的な挙動です。感情に任せて怒っていても調教に資することはなく、むしろ逆効果となる。馬が嫌がる、あるいは反抗する事態そのものを引き起こさないように持ち込むことと、また、そういう反応を馬が示す可能性があれば、それをあらかじめ予見し、もし反応したら間髪入れず対処して人の意思を明確にわからせる、ということだと思います。

大事なのは、先読み・先回りすることで、「叱らないですむように」取りなすことです。調教の組み立て、運動の内容、日頃の手入れなど、馬と接する時に馬の感情を汲み、協調してくれるように持っていくことで、人と馬の関係も築かれていくのでしょうか。「言うは易し、行うは難し」ですね。「叱る」ことは「懲戒」とも言います。「懲戒」については機会があれば別の稿で論じたいと思います。

ちなみに西川さんは北皇子号の初期調教者でした。北皇子は1979年に3歳で馬術部に入厩し17歳まで活躍してくれた名馬で、1994年に日馬連から功労馬表彰を受けています。

馬術部S41卒のOBで、今の後援会体制の立ち上げにご尽力くださった高野文彰さんが、2021年8月31日に逝去されました。享年78歳でした。世界的なランドスケープ・デザイナー、造園家であり、国立昭和記念公園や滝野すずらん丘陵公園、十勝千年の森の設計に携わるなど、日本のみならず世界各地で活躍されました。この3月に、主宰された高野ランドスケーププランニングの45年にわたる軌跡をまとめた「ランドスケープの夢」を刊行されたばかりでした。北大の特別教育プログラムである新渡戸カレッジのフェローも務めておられました。

1975年に東京でスタートされた会社を、1990年に十勝・音更に移転し、それと同時にご自身も馬を自宅で飼い、馬術を再開され、国体や全日本馬術大会の出場・入賞を果たされました。最近では毎年、新入部員勧誘ポスターを作ってくださいました。これらポスタ

一に惹かれて入部した部員も多くいることと思います。いつも部員たちを励ましてくださってました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、関係者の皆様に一言、お礼を申し上げます。今年度も馬術部の活動に対し、多くのご支援をいただきました。北大のフロンティア基金やその他いろいろな手立てを通じ、多数の団体、OG・OB諸姉諸兄より部をサポートしていただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。コロナ禍はまだ沈静化する様子が伺えませんが、どうかお健やかに過ごさるようお願いいたします。

---

# 指導部報告

---

## 指導部より

昨年度の部報上でのご報告より1年が経過しましたが、新型コロナの影響や繋養馬のバランス、練習量の低下などいくつかの問題点もあり、現役部員にとってはなかなか思うようにいかない1年間だったのではないかと思います。本年度も、部報紙上をお借りして活動を報告させていただきます。

### I. この1年(2021年3月-2022年2月)の活動

#### 1) 部馬の動静

##### ・北暁の安楽殺

北暁(ノーステア)は2015年に入厩し、ここ数年は北日本・全日本の総合に出場して活躍しており、今後が期待されていた馬の1頭でした。しかし、2021年3月8日の放牧後に右前肢の跛行が認められ、その後基節骨の骨折と診断されました。治療困難・予後不良のため現役部員が安楽殺を決断し、3月26日に安楽殺が行われました。遺体は獣医学部で解剖が行われ、部員を含む学生の学びに繋がりました。

##### ・ディアードの入厩

かねてからフロンテア乗馬クラブよりお話をいただいております、ディアード(13歳、セン、鹿毛、2007年6月4日生、父：パンサー、母：ハイティー)が4月4日入厩しました。中半血で動きも良く、部員が騎乗して学べることが多いと期待されます。

##### ・テイエムシュンソク、キタノブルー、ファンキーボーイの入厩

新入部員を含めた部員数の増加により、練習の鞍数不足が問題となっていたところ、モモセライディングファームよりお話をいただき、テイエムシュンソク(4歳、セン、芦毛、2017年5月1日生、父：クロフネ、母：アドマイヤライト)、キタノブルー(4歳、セン、鹿毛、2017年2月13日生、父：ディーピングパクト、母：オールウェイズウィリング)、ファンキーボーイ(3歳、セン、鹿毛、2018年3月23日生、父：マクフィ、母：スターシンフォニー)の3頭が6月18日に入厩しました。このうち、ファンキーボーイは前肢の怪我から跛行し、回復の見込みが立たないことから、残念ながら10月18日にモモセライディングファームへ離厩いたしました。テイエムシュンソク・キタノブルーともに若いことから、練

習に使いつつ競技を目指していくことが期待されます。

・セノーテ、メジロイングリットの入厩

1月初めに軽種馬育成調教センターよりお話をいただき、来年度も新入生の入部により練習の鞍数不足が予想されることなどから、セノーテ（14歳、牝、鹿毛、2007年4月23日生、父：シックスセンス、母：チャップ）、メジロイングリット（14歳、牝、芦毛、2007年2月10日生、父：メジロマックイーン、母：シェアザハート）の2頭が1月19日に入厩しました。軽種馬育成調教センターでしっかりと調教されているため、下級生の練習を中心に活躍してくれることが期待されます。

2) ミーティング

この1年間も定期的に現役部員とコミュニケーションを取り、問題や課題を共有していくためにミーティングを行いました。新型コロナの感染対策のため、ミーティングは主にオンラインで行っております。以下に概要をまとめます。

・2021年3月20日

部長、指導部・若手OBと現役部員の間でミーティングを行い、現役部員からの現状報告の後、次のシーズンに向けての方針等について意見交換を行った。現状、新型コロナの感染対策として練習を3グループに分けて週2回ずつ行い、4月以降もある程度グループに分けて行うことが報告された。また、半澤杯の中止と新緑大会への不参加も確認された。現役部員からは、部員数の増加などから春には馬を増やしたいとの要望が出され、かねてより話のあったフロンティア乗馬クラブのディアードを入厩させることで同意した。さらに、これまでに北大のフロンティア基金に5名のOBから寄付をいただき、JRAからも馬術部への寄付があったことが共有され、その用途について意見交換がなされた。

・2021年5月30日

部長、指導部・若手OBと現役部員の間でミーティングを行った。議題は主に新馬の入厩についてであり、モモセライディングファームから話をいただいた馬について意見交換を行った。新型コロナの感染対策が一部緩和され、練習の鞍数が大きく不足していることからぜひ入厩させたいという現役の要望を受け、テイエムシュンソク、キタノブルー、ファンキーボーイの3頭を入厩させることで同意した。

・2021年6月5日

6月初めに現役部員から、馬装中に1年生が馬と馬繋台の間に挟まれて怪我をしたとの報

告があり、その前にも手入れ中などの事故が続いたことから、井上部長の呼びかけで事故対策のためのミーティングが行われた。事故の経過について報告され、今後行うべき対策について議論された。馬を取り扱う際の注意点や、人の側で出来る対策について具体的に挙げられた。また、事故防止対策マニュアルの見直しと、事故の記録及び事故報告を月ごとに行うことが決定された。

・2020年10月23日

部長、指導部と現役部員の間でミーティングを行い、現役部員から代替わりと今後の活動方針の報告を受けた後、下級生の練習や馬の調教について意見交換を行った。代替わりに伴う新たな役職人事とともに、現在の部員数(54人)と練習体制(上限50人)が報告された。冬までの練習方針として、1・2年生のレベルアップを中心的な目的とすることが説明されるとともに、人だけでなく馬の調教レベルも低下してしまっていることに対する問題意識を共有した。その対策として、春休みの合宿で外部の指導を受け、それを自分たちの練習や指導に還元していくこと、練習メニューの組み立てや練習方法を工夫することで普段の練習の質を向上させることなどについて話し合われた。さらに、モモセライディングファームから入厩したファンキーボーイについて、跛行が改善せず、今後練習に使えるかどうか見通せないことから、モモセさんとも相談し離厩させることが現役部員から提案され、了承された。

## II. 現状と今後の課題

### 1) 繋養馬と新馬調教

現在の繋養馬の構成は、最高齢が北響16歳、最若齢が北駿(テイエムシュンソク)5歳の平均11.6歳となっています。今年度は部員数の増加による練習の鞍数不足から、多くの馬を新たに入厩させました。一方で、現状完全な新馬を入厩させて調教する余裕がなく、下級生の練習に使える馬が必要であるとの考えから、ある程度調教された年齢の高い馬も入厩させるとの判断に至りました。これまでの、競技にも練習にも使える馬を調教していくという方針とずれる点もありますが、現在の部の練習をまわしていくためには必要な措置であると考えています。

繋養馬の状態に関しては、昨年度競技に出場した北騮、北稜の2頭は跛行が続くなど十分な練習が行えず、今年度の競技に出場できる状態にすることができませんでした。また、競技への出場が期待されていた北鷹・北汐・北琉は、徐々に障害で拒止することが増えるなど、調教段階としては後退したと言わざるを得ないのが現状です。昨年入厩した北叡(ダノンクライム)に関しては江口が騎乗・指導しつつ現役部員中心に調教を進め、60-80cmほど



の障害を安定して飛越できるようになってきています。今年度入厩した北駿（テイエムシュンソク）と北蒼（キタノブルー）に関しては、多少癖があり苦戦している部分もありますが、現役部員が根気強く騎乗して調教を進めている段階です。

## 2) 部活動・練習

・今年度の最上級生は3名と少なく下級生の部員が多いことから、やはり下級生の指導が課題となりました。代替わりした3年生は10名以上の部員がいるため部員数のアンバランスは改善傾向にあります。練習内容や指導方法に自信が持てず、下級生に積極的な指導が出来ていないように感じられます。指導部として、練習方法の提案などアドバイスは行ってきたものの、それが定着して十分な効果を発揮するには至っていません。このような現状に現役部員も危機感を持ち、系統的な練習体制を構築するべく現役部員が主導して練習内容・方法の素案作りを行っており、そこに指導部が意見する形で練習方法の確立を進める予定です。練習体制の確立がなかなか進められず力不足を感じているところではありますが、現役部員と協力して少しずつでも進められればと考えています。

・昨年度から、新型コロナウイルス感染対策に配慮しながらの活動が続いています。今年度は昨年度に比べある程度緩和されたものの、感染状況によっては普段の練習や大会への参加、合宿などの活動に制限がかかっています。感染者が出てクラスターとなってしまうと、馬の世話にも影響が出かねないと危機感を持ちつつ、練習や大会参加などの活動を出来る限り行えるよう、現役部員が工夫しながら日々の活動を行っています。

・現状の大きな課題は、部員の騎乗レベルと馬の調教レベルを上昇させることとあります。部員数の増加や新型コロナの影響で練習量が減って騎乗技術の向上が停滞することで、馬の調教段階も上がらず思うように練習や大会参加が出来ない、という負のスパイラルに入りつつあると認識しています。現役部員もこれをなんとか改善しようと、特に下級生の練習量を出来るだけ確保する、自分たちだけで足りない部分は外部（乗馬クラブ等）の方に教を乞うなどして努力しております。指導部も部員の指導・サポートをしつつ、より有効な対策が打てないかと模索しています。

・昨年度もご報告しましたが、部員が増加したことによりマンパワーの点での問題は改善しつつあると思われ。財政面は、今年度繋養馬の頭数を増やしたことで支出は増加したものの、部員数の増加により収入も増加し、ある程度安定しているように思われます。また、OB・OGの方々やJRA、ノーザンファームなど多くの方々・団体より寄付をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げるとともに、有効に使用できるよう現役部員と話し合っていきたいと思っております。

・昨年度の報告で問題として挙げた現役部員と指導部のコミュニケーション不足は、ミーティングや普段の交流を通してある程度改善してきたと思われまますので、今後もさらなる改善に努めます。一方、若手 OB の数がそもそも少なくなっており、その点も馬の調教や部員の指導に影響を与えていると思われまます。今後、若手 OB の協力だけに頼らない体制も構築していく必要があると考えています。

昨年度から引き続き、新馬調教や練習体制、コミュニケーションの改善などに取り組んできました。しかし、新型コロナや部員数の増加などの影響に対応するには十分とは言えず、現状は現役部員にとっても難しい状況であると思われまます。指導部としましては、様々な方のお力をお借りしながら、現在の状況に柔軟に対応し、現役部員の活動を支えていきたいと考えておられまます。OB・OG の皆様にも、今後ともご支援・ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたしまます。

以上

(2022.3.30 文責 江口遼太)

---

# 活動報告

---

## 《前主将から》

田中 沙季

昨シーズンは新型コロナウイルス感染拡大による活動制限が多く、我慢の1年でした。しかしながら、昨年までに引き続き部員が増え、それに伴い新馬が入厩するなど、良い変化も多かったと思います。コロナ禍の影響で部員の減少した部活が多かった中、なんと昨年度時点では大学馬術部で部員数が全国一となりました。馬術部は特に人手が重要な部活なので、3年前の部員減少からここまで立て直すことができ良かったです。

主将としては、自分も含め全員が満身に活動できない中で、部員達のモチベーションや部の雰囲気を保つことを第一に考えてきました。特に乗鞍の問題には一番頭を悩ませ、練習内容などを模索してきました。それでも部員が急増したこと、馬が足りないこと、コロナの影響で練習時の人数を制限されたことなどが重なり、特に下級生には十分な練習をさせてあげられなかったのが心残りです。そんな中でも多くの部員が馬と真摯に向き合い、限られた時間の中で練習に励み、1年間私についてきてくれたお陰でなんとか1年間を乗り切れたかなと思っています。4年生が少なかったこともあり、後輩達の協力無しにこの1年間の部活動は成り立ちませんでした。本当にありがとうございました。

また、試合結果などOB・OGの皆さんに良い報告をできる機会が少なかったのですが、変わらず多くの方が応援してくださり大変励みになりました。大会が中止になったり、合宿へ行けなかったりという状況が約2年間続き、部員と新馬の経験不足が大きな課題となっています。今も3年生が中心となって人馬の育成に取り組んでくれていますが、しばらくは多くの方々のサポートが必要です。部員も馬も増え、活気のある北大馬術部へと発展していくための土台はできています。今は課題が多く、これを乗り越えるのに時間もかかると思いますが、今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

## 《主将》

植田 咲喜

北大馬術部は現在3年生15人、2年生17人、1年生14人の合計46人と馬11頭で活動しています。

本年も新型コロナウイルスの影響で、上半期は大幅に制限された中での活動となりました。具体的には、半沢杯、5,6月のノーザンホースパークでの大会が中止となり、北日及び北日選手権がオンライン開催となりました。下半期には事態は徐々に回復し、10月からは朝練の人数制限が50人となったため、グループ制を止め、なるべく朝練に参加できる人数を増やし、それまで個人的な練習となっていた上級生の練習も、お互いに指摘しあうなど、より充実したものとなりました。

下級生に関しては、本当にたくさんの1年生が入部してくれ、ありがたい限りでしたが、北大の馬が提供できる練習鞍に限られており、北稜（ダノンアンチョ）や北錐（アップヒルティガー）など慢性的な跛行により満足に練習できない馬もいたため、手放しに喜べる状況ではありませんでした。そのため、1年を通して上級生の経験不足と下級生の練習不足が課題となりました。これらの課題を少しでも解決するために、「乗馬クラブに乗りに行くこと」と「新馬の入厩」の2つを4年生主導で進めていただきました。

乗馬クラブについては、真駒内乗馬クラブ様、早来エクワインファーム様、オーフルホースコミュニケーション様、フロンテア乗馬クラブ様に行かせて頂いています。乗馬クラブでは北大の馬とは違った馬に乗ることで多くの学びを得られるので、北大の馬に還元していきたいと思います。1年生が北大以外で指導される時に、方針の違いなどで混乱することが課題となりましたが、様々な人の意見を聞き、それを鵜呑みにせず、自分の頭で考えることも上達に必要なことだと思っています。加えて、先輩方が残してくださった馬術部マニュアルを私たちの代でも改善し、今後の指導に役立てていきたいと考えております。

次に、馬匹についてです。本年は本当に入離厩の多い年となりました。3月に北暁（ノーステア）が永眠、4月にフロンテア乗馬クラブ様よりディアードが入厩、6月にはモモセライディングファーム様よりテイエムシュンソク、キタノブルー、ファンキーボーイが入厩しましたが、練習中の事故によりファンキーボーイが負傷し、10月に離厩となりました。4年生を含め、全員が馬の入離厩及び新馬調教の経験がなかったため、うまくいかないことも多くありましたが、その度に助けてくださった江口兄をはじめ指導部の方々には大変感謝しております。

来シーズンは総合全日本出場、One for All, All for Horse（一人ひとりが部員としての責任感を持つ）を目標に掲げ、今シーズンの雪辱を果たせるように精進しますので、応援よろしく申し上げます。

最後に、大会で不甲斐ない結果となってしまった北大を見てたくさんの方が心配し、手を差し伸べてくださいました。これは先輩方が北海道の乗馬クラブなど他団体の方と良好な関係性を築いてきてくださったお陰であることに気づき、この関係性を後輩たちに繋いでいかなければと改めて思いました。

## 《副将》

水木 優之介

前任者の退部により10月から副将を務めさせていただいております。今年からこれまでの副将の業務のうち、レンタカー対応や乗馬クラブとの連絡などをそれぞれ適任者に担当していただき、副将の負担を軽減させていただいています。

現在はコロナ禍での練習不足を取り戻すべく積極的に練習に取り組み、1年目から上級生まで乗馬クラブや他大学の皆様にお世話になり、日々騎乗や調教の技術を磨いております。2年目としては、指導部の方々をはじめOB各位や上級生からご教授いただいた練習メニューや技術に加え、外部で得られた新たな知見も取り込み、来季以降により充実した練習ができるように努めていきたい所存です。今後も下級生が一丸となって上級生を支え、より良い部の環境づくりを目指していきたいと思っておりますので、応援よろしく願いいたします。

## 《主務》

石田 隆悟

はじめに、去年に引き続き部員数が増加し各役職の人員に少し余裕が出てきたことも踏まえ今年主務補佐（副務）を設け、2年目渡辺と共に1年間仕事をしてきました。1年間業務を行い経験することで例年上手く行われてこなかった引継ぎを確実に行えればと思っています。去年に引き続き感染症対策による影響を受けた1年でした。大学や学馬連の方針の変化に常に気を配り、大会参加や遠征などの申請には注意を払いながら対応してきました。

また部員が増えた影響で誰がどの仕事を行うのか、行っているのかが曖昧になる場面が見受けられたので、主将、会計長以外の部員とも積極的に連絡を取り合う必要性を感じま

した。大人数での運営がスムーズに行えるような分担システムを作っていきたいと思いません。

## 《運営》

駒田 智美

昨年に引き続き運営長を担当しました3年の駒田智美です。本年も新型コロナウイルス感染症の流行によって、大会や各種コンパの開催を断念せざるを得ない1年でした。半澤杯、北大ほーすしょーとも開催を中止し、ノーザンホースパークにて行われる大会に関しても、6月の春季大会が中止になったことを受けて、大会運営に携われたのは8月の国体予選と9月の秋季大会の2大会のみでした。少ない大会の中でできる限り後輩への仕事の引き継ぎをしたつもりですが、不十分な点が多々あると思いますので次年度も引き継ぎ作業に重点を置きつつ、私達3年生が引退してもスムーズな大会運営ができるように体制を整えて参ります。

広報並びにOBOGの皆様との交流について、前述の通りコロナの影響で確定新歓、代替わりコンパ、忘年会など皆様と交流する場が全て失われてしまいました。1,2年生はOBOGの皆様を交えたコンパを経験したことがなく、このままでは十分な引き継ぎができなくなってしまったため、情勢を鑑みつつにはなりますが次年度こそはコンパを開催したいと考えております。

次年度もご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 《馬匹》

伴 日向子

はじめに、本年度も指導部の皆様、特にノーザンファームの川崎獣医師をはじめ、OBの皆様方、NJF様、装蹄師の国藤様、北海道大学獣医学部の柳川先生、酪農学園大学外科ユニットの佐藤先生など多くの皆様のお力添えの元、つつがなく馬たちを育てることができました。厚く御礼申し上げます。

今年は多くの馬の入厩があり、新たな出会いがありました。4月4日にはフロンティア乗馬クラブ様よりディアード号が、6月18日にはモモセライディングファーム様よりキタノ

ブルー号、テイエムシュンソク号、ファンキーボーイ号が新たな仲間として迎え入れられ、また、1月19日には軽種馬育成調教センター様よりメジロイングリッド号とセノーテ号も加わりました。残念ながらファンキーボーイ号は負傷により10月18日に離厩と相成りモモセライディングファーム様へと引き取られました。また昨年の春先2021年3月26日には放牧中の事故により骨折したノーステア号が天国へ旅立ちました。現代の獣医療の壁は厚く、何もできないことに歯がゆい思いをしました。

また、アップヒルティガー号やアンチョ号といったエース馬の故障や他の馬たちの跛行など、ウマ達の負傷が本年は目立ちました。年齢を重ねているということもあるとは思いますが、硬い馬場が馬たちの脚に負担をかけていることも事実です。脚への負担を考えた練習や日頃のケアを組み合わせる現在は対処しており、手入れで気を付ける項目も増え大変ではありますが、部員一同日々模索しながらも馬たちの健康維持増進に努めております。

部員も充実している現在、馬匹は薬品、飼料、装蹄と3つの部門に分かれて活動しております。大学馬術部という特殊な環境下の中で、馬たちを安全に、健康に、そして元気な状態で飼育できるよう、これからも励んでまいります。役職の特性上、指導部をはじめ外部の方々のお世話になることも多々あると思っておりますが、次年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

## 《作業》

### 山中 竜馬

作業長は前年度に引き続き山中が担当しました。仕事内容は昨年度と大きく変わっていませんが馬術部域内に増えたものが2点ほどあります。1つはパドックです。こちらは別途担当者の報告があるため、ここでは割愛させていただきます。もう1つは散水機です。以前よりハロー掛けや練習時、強風等による馬場の砂埃が問題となっていました。そこでこの問題を解決するために散水機を導入し、ハロー掛け前に実施することで砂の飛散量を抑えることが出来たと思います。この散水機の導入には後援会の皆様からのご援助により購入することが出来ました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

以前から取り組んでいた問題点として馬場の砂質改善があります。馬場の硬さが問題視され、これが馬の脚に影響を及ぼすことから根本的な解決が求められました。解決に向け取り入れた1つの方法が散水機の導入です。これにより砂の飛散量が例年よりは抑えられているのではないかとと思いますが、間接的な対処でした。前年度からどのようにすればいいか考慮してはいましたが、予算の問題からなかなか進展がありませんでした。本質的に改善でき

るよう予算や井上先生とも相談しながら業者に相談しつつ解決にむけて頑張っ参ろうと思ひます。

## 《会計》

若林 壮真

2021年は昨年からの繰越金も多く、比較的余裕のある財政状況からスタートすることが出来ました。新型コロナウイルスの影響による北大主催大会の中止、馬の頭数増加に伴う飼料代増加など、多少の収入減少、支出増加はありましたが、今年も多くの新入生が入部してくれたことで安定した部費収入を得られ、部員数増加に伴い大会での使役人員、セールや乗馬クラブでのバイト人員を増加することが可能となり、収入増加へと繋がりました。加えて、昨年に引き続き複数の個人・団体から多額のコロナ支援金を、部の一般会計とフロンティア基金に頂けたことで、来年により一層の繰越金を残して本年を終えることが出来ました。今年には余裕のある資金を散水機の購入や、パドックの設置など、新たな設備の導入にも用いることが出来ました。散水設備代に関しては、部報発行費用と合わせて後援会から支援していただき、とても感謝いたしております。

2022年も馬術部の活動が円滑に進むように、より安定した財政運営を心掛けて行きたいと思ひます。OB・OGの皆様には、馬術部の更なる発展のためご支援・ご協力のほどよろしくお願ひします。



北海道大学体育会馬術部 2021年度 収支決算書

2021年1月～12月  
単位：円

項 目	予算	2021年度決算	増 減	備 考
<b>I. 収入の部</b>			正は収入増	
<b>1. 部費</b>	<b>3,105,000</b>	<b>3,529,500</b>	<b>424,500</b>	
<b>2. アルバイト</b>	<b>2,280,000</b>	<b>4,250,560</b>	<b>1,970,560</b>	
メインフィールドズ	0	0	0	昨年よりバイトなし
フロンティア	265,000	628,100	363,100	
真駒内	0	154,900	154,900	8月よりバイト開始
セール	1,030,000	1,909,600	879,600	バイト人員増加による増
JRAポニー	0	127,305	127,305	
札幌競馬場	985,000	1,305,320	320,320	
その他	0	125,335	125,335	
<b>3. 大会運営・使役</b>	<b>1,950,000</b>	<b>1,249,548</b>	<b>-700,452</b>	コロナによる大会中止による減
道馬連大会使役	900,000	820,548	-79,452	
道馬連大会フレンドリー運営	600,000	429,000	-171,000	
北大主催大会運営経費	450,000	0	-450,000	
その他	0	0	0	
<b>4. 補助金</b>	<b>920,000</b>	<b>1,942,997</b>	<b>1,022,997</b>	
道馬連補助	300,000	436,400	136,400	
日馬連補助	500,000	1,435,000	935,000	飼育助成金による増
体育会補助	120,000	71,597	-48,403	
<b>5. 寄附金等収入</b>	<b>0</b>	<b>901,648</b>	<b>901,648</b>	内訳を注1に別記
<b>6. その他収入</b>	<b>1,000,000</b>	<b>762,011</b>	<b>-237,989</b>	内訳を注2に別記
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>9,255,000</b>	<b>12,636,264</b>	<b>3,381,264</b>	

注1：寄附金等収入の内訳

後援会からの散水設備・部報発行費援助金	760,000
寄付金（4件、フロンティア基金を除く）	141,648
合計	901,648

フロンティア基金

前期繰越金	1,112,503
今期寄附 8件	3,232,000
合計	4,344,503

注2：その他収入の内訳

現役部員より徴収したパドック代	605,000
北日本馬術連盟より補助金	40,000
その他	117,011
合計	762,011

項 目	予算	2021年度決算	増 減	備 考
<b>II. 支出の部</b>			<b>正は支出増</b>	
<b>1. 馬匹</b>	<b>3,710,000</b>	<b>4,637,381</b>	<b>927,381</b>	馬の頭数増加による支出増
装蹄	990,000	1,071,345	81,345	
飼料	1,320,000	1,898,963	578,963	
乾草	420,000	360,000	-60,000	
敷料	480,000	740,300	260,300	
薬品治療費	300,000	562,942	262,942	
その他	200,000	3,831	-196,169	
<b>2. 大会</b>	<b>2,408,000</b>	<b>802,841</b>	<b>-1,605,159</b>	コロナによる大会中止による支出減
輸送費	1,400,000	472,090	-927,910	
大会参加費	308,000	166,600	-141,400	
大会参加・遠征補助	400,000	30,000	-370,000	
大会運営経費	300,000	134,151	-165,849	
<b>3. 馬具備品消耗品費</b>	<b>1,030,000</b>	<b>2,953,564</b>	<b>1,923,564</b>	
馬具・馬備	60,000	239,873	179,873	フロンティア基金より別途¥329,868分購入
砂代	200,000	0	-200,000	フロンティア基金より¥294,000分購入
備品	560,000	620,960	60,960	散水機代¥595,401含む
ハローがけ	90,000	162,908	72,908	ハロー交換代¥120,000含む
その他	120,000	1,929,823	1,809,823	内訳を注3に別記
<b>4. 登録費</b>	<b>303,080</b>	<b>306,315</b>	<b>3,235</b>	
全日本学生会費	142,440	156,495	14,055	
日馬連登録費	20,220	74,600	54,380	
北日本学生会費	80,200	15,000	-65,200	
道馬連会費	60,220	60,220	0	
<b>5. その他</b>	<b>1,517,640</b>	<b>2,389,201</b>	<b>871,561</b>	
レンタカー代	662,640	1,218,160	555,520	大会人員増加に伴うレンタル台数追加による増
交通費	295,000	537,272	242,272	バイト先・回数追加による支出増
通信費・出張・その他諸雑費	360,000	633,769	273,769	部報印刷代¥133,980含む
予備費	200,000	0	-200,000	
<b>当期支出合計 (B)</b>	<b>8,968,720</b>	<b>11,089,302</b>	<b>2,120,582</b>	
<b>当期収支差額 (A)-(B)</b>	<b>286,280</b>	<b>1,546,962</b>	<b>1,260,682</b>	
<b>前期繰越金</b>	<b>6,179,240</b>	<b>6,179,240</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越金</b>	<b>6,465,520</b>	<b>7,726,202</b>	<b>1,260,682</b>	

注3：馬具備品消耗品(その他)内訳

pvc製パドック代	1,320,440
パドック用砂代	249,920
ノーステアお墓代	332,420
その他	27,043
合計	1,929,823

## 《2021 年度戦績》

### 北海道夏季馬術大会

於：ノーザンホースパーク 7/23～7/25

LB part1				減点	タイム
1位	長瀬萌々子	エックスマーク	真駒内乗馬クラブ	0	54.88
2位	佐藤典弘	パワースラッガー	酪農学園大学馬術部	0	56.58
3位	伊藤祥子	ハニーベリー	ノーザンファーム	0	60.63
4位	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)	0	63.48
11位	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	6	72.57
2反E	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)		
2反E	井上芽依	北琉	北海道大学(3)		

LC part1				減点	タイム
1位	内田篤	セラドン	北広島乗馬クラブ	0	53.93
2位	中神美清	ガーナ	ノーザンファーム	0	57.53
3位	梶井明	ミルキーウェイ	北広島乗馬クラブ	0	57.93
18位	曾和祐稀	北鷹	北海道大学(3)	6	73.38
2反E	森翠	北響	北海道大学(4)		
2反E	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)		

ステップアップジャンピング				減点	タイム
1位	津田あいみ	ウィリークリオ	ノーザンファーム	0	40.93
2位	谷津江里	フリッカー	北広島乗馬クラブ	0	41.18
3位	和田光麗	ファーブルトン	札幌光星高校	0	43.73
12位	江口遼太	北汐	北海道大学	0	50.73
18位	山中竜馬	北叡	北海道大学(3)	4	41.03
2反E	西田康晟	北汐	北海道大学(2)		

LA part2				減点	タイム
1位	斎藤はる	クマ	酪農学園大学馬術部	0	57.53
2位	梁川正重	ダノンムーン	早来エクワインファーム	0	63.67
3位	百瀬利来	レッドドラ	モモセライディングファーム	4	56.18
6位	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)	4	62.08

LC part2				減点	タイム
1位	梶井明	ミルキーウェイ	北広島乗馬クラブ	0	57.58
2位	内藤美希	エックスマーク	真駒内乗馬クラブ	0	60.38
3位	岩佐孝	トーキングポイント	にかっぶほろシリ乗馬クラブ	0	64.19
10位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)	0	70.83

1スター				最終得点率
1位	日下部孝政	柏陽	帯広畜産大学	62.826
2位	小野瀬北馬	柏妙	帯広畜産大学	61.087
3位	北田真悠	柏玄	帯広畜産大学	60.652
5位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)	56.739
7位	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	51.377

第67回北海道体育大会 兼 第76回国民体育大会北海道ブロック大会  
 於：ノーザンホースパーク 8/13～8/15

LA part1				減点	タイム
1位	白井岳	キャリアーズシンフォニー	白井牧場不二ファーム	0	54.73
2位	田村駿	騾臈	酪農学園大学馬術部	0	57.13
3位	上村駿介	スズカリバー	モモセライディングファーム	0	58.83
2反E	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)		

LB part1				減点	タイム
1位	三津谷篤人	ジュリー	ノーザンファーム	0	46.78
2位	伊藤祥子	ハニーベリー	ノーザンファーム	0	49.48
3位	中神美渚	ガーナ	ノーザンファーム	0	51.63
2反E	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)		
OP	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)		

LC part1				減点	タイム
1位	矢島綾子	オーバーザリミッツ	早来エクワインファーム	0	51.58
2位	上村駿介	メイショウジーク	モモセライディングファーム	0	56.38
3位	若生五月	ナイトバロン	モモセライディングファーム	0	58.13
2反E	山中竜馬	北叡	北海道大学(3)		
2反E	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)		

LC part2				減点	タイム
1位	村田彩子	バルデス	酪農学園大学馬術部	0	58.68
2位	上村駿介	メイショウジーク	モモセライディングファーム	0	59.03
3位	若生五月	ナイトバロン	モモセライディングファーム	0	59.88
5位	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)	4	54.78
2反E	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)		

1スター part1			最終得点率
1位	丸山菜摘	トップリバティ	酪農学園大学馬術部 53.116
2位	井上芽依	北陽	北海道大学(3) 51.739

A2 part1				最終得点率
1位	百瀬利来	ユーノテソーロ	モモセライディングファーム	57.381
2位	若生五月	ルーナカランテ	モモセライディングファーム	56.310
3位	若生五月	ペルーサ	モモセライディングファーム	54.524
5位	林朋花	北陽	北海道大学(2)	45.952
WD	高橋知里	北陽	北海道大学(2)	

1スター part2			最終得点率
1位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3) 53.986
WD	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)

A2 part2				最終得点率
1位	百瀬利来	ユーノテソーロ	モモセライディングファーム	57.857
2位	若生五月	ホルボッシュ	モモセライディングファーム	57.738
3位	シュカンドラ・ドミニカ	プレーヴチェイサー	早来エクワインファーム	54.167
5位	小久保奈於	北陽	北海道大学(2)	46.548
7位	渡辺晴菜	北陽	北海道大学(2)	44.619

第43回北海道地区乗馬大会

於：ノーザンホースパーク 10/8～10/10

LA				減点	ジャンプオフ			
					タイム	減点	タイム	
1位	伊藤祥子	ハニーベリー	ノーザンファーム	0	68.43	0	44.73	
2位	畠山朋弘	パールフルムーン	トアステーブル	0	76.28	0	45.83	
3位	白井岳	キャリーズシンフォニー	白井牧場不二ファーム	0	73.78	4	43.83	
2反E	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)					

ビギナーズ60

				減点	タイム
1位	八木浩樹	オーバーザリミッツ	早来エクワインファーム	0	35.53
2位	津田由佳梨	フリッカー	北広島乗馬クラブ	0	37.19
3位	城麟太郎	フリッカー	北広島乗馬クラブ	0	38.58
15位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)	0	47.78
18位	水木優之介	北叡	北海道大学(2)	4	36.33
24位	曾和裕稀	北叡	北海道大学(3)	4	56.48
26位	江口柚希	北叡	北海道大学(2)	5	60.33
27位	青木貴哉	北鷹	北海道大学(2)	6	64.47
OP	井上芽依	テイエムジュンソク	北海道大学(3)	8	43.23
2反E	井上芽依	テイエムジュンソク	北海道大学(3)		
2反E	井嶋南里	北琉	北海道大学(2)		
2反E	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)		
落馬E	戎真由香	北汐	北海道大学(2)		
落馬E	宮下祥馬	北汐	北海道大学(2)		
落馬E	筒井千香子	北琉	北海道大学(2)		

A2

				最終得点率
1位	村上康介	リトルノワール	札幌乗馬倶楽部	60.119
2位	松下奈穂	エストレヤ	ほくせい乗馬クラブ	59.643
3位	矢島綾子	スティッフエリオ	早来エクワインファーム	59.286
11位	澤井歩花	北鷹	北海道大学(2)	54.762
14位	平田慧	北汐	北海道大学(1)	52.024
15位	渡辺晴菜	北汐	北海道大学(2)	51.786
16位	法貴紀雅	北汐	北海道大学(2)	49.286

### 第57回北日本学生馬術大会

於：北海道大学(ビデオ判定)

				総減点
MD				
1位	松尾航汰	パワースラッガー	酪農学園大学	0
2位	渡邊琴羽	柏奏	帯広畜産大学	20
2位	丸山菜摘	トップリバティ	酪農学園大学	20
E	坂本信仁	北琉	北海道大学(3)	
E	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	

学生賞典総合馬術競技1スター

				平均得点率
1位	日下部孝政	柏陽	帯広畜産大学	65.650
2位	小野瀬北馬	柏妙	帯広畜産大学	64.020
3位	北田真悠	柏玄	帯広畜産大学	62.500
14位	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	55.330

学生賞典馬場馬術競技L1

				最終得点率
1位	渡邊琴羽	柏奏	帯広畜産大学	60.400
2位	西村弥大	プレスト	帯広畜産大学	60.100
3位	横山七海	杜東雅	東北大学	55.900
4位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)	54.700
8位	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	48.800

### 第94回北日本学生馬術選手権大会

於：北海道大学(ビデオ判定)

				最終得点率
1位	岡本優	柏艶	帯広畜産大学	121.052
2位	金澤隼人	杜千白	東北大学	119.474
3位	田村駿	トウショウヴァース	酪農学園大学	114.211
9位	若林壮真	北鷹	北海道大学(3)	94.474

### 第58回北日本女子馬術選手権大会

於：北海道大学(ビデオ判定)

				最終得点率
1位	植田咲喜	北汐	北海道大学(3)	118.158
2位	渡邊琴羽	柏都	帯広畜産大学	114.737
3位	清野菜帆	キネオワールド	岩手大学	114.473

### 第57回全日本学生馬術女子選手権大会

於：蒜山ホースパーク 11/26～11/28

1回戦Bブロック

				最終得点率
1位	細川由妃	蒼雲	日本大学	59.386
2位	井田風花	蒼雲	関西大学	55.614
3位	永井彩音	蒼雲	大阪市立大学	55.351
4位	植田咲喜	蒼雲	北海道大学(3)	54.737

---

## 調教報告

---

### ◆北鷹号（シュガーシャック）◆



サラ セン 栗毛  
生年月日 2009年2月24日  
北海道勇払郡安平町  
父アドマイヤドン  
母メイプルシロップ  
入厩日 2014年6月14日

武井 陸

昨年のシーズンオフから今年の6月まで北鷹（以下シュガー）のチーフをさせていただきました3年目の武井です。北日の総合で結果を残し全日へと駒を進めることを目標にシュガーとともに練習しておりましたが、6月に自分自身の運動ができなくなってしまったため、急遽若林にチーフを交代してもらうことになりました。このことで若林をはじめとする部員のみんな、そしてシュガーにも大きな迷惑をかけてしまい、非常に申し訳なく思っております。調教すると言えるほどの実力が伴っていなかったところも多々ありましたが、自分がチーフだったころの練習、調教内容についてご報告させていただきます。昨年のシーズンオフを迎えチーフとなった際、シュガーの来年度の北日総合で権利獲得の目標を目指して、雪がとけるまでの期間は馬場運動、特にワンスターで求められるレグイールディングは重点的に、そして低い野外障害の飛越を中心に行い、春先から夏にかけて障害の高さをあげて7月末には安定してMDのオクサー障害を飛越できる状態にし、なるべくノーザンの大会へは連れていき野外馴致を行う、という練習方針を立てました。新型コロナウイルスの影響もあり、人に関しては週2日しか練習が認められなかったため、実際には自分が参加できる曜日に関しては1日は馬場鞍で馬場運動、もう一日は総合鞍で野外障害、参加しない日は他の上級生の元でFWを行うという練習サイクルで行っていました。馬場運動に関してはシュガー自体の能力も高く、むしろ自分が正しいやり方を教えてもらうというほどでした。最初は左右の脚への反応がいまいちでうまくいかないことも多かったですが、2月ごろにはなんとか形になり始め、雪が溶け始める時期になると左右の脚反応もだいぶ良くなったように感じました。野外障害に関しては、一通りのものは素

直に飛んでくれるものの、幅が狭い障害と自然横木のオクサーに対してはひるんでしまうという状態だったため、冬の期間はほとんどその2つの障害を飛越していました。結果として春先までに2つとも速歩で素直に飛越してくれるようになりました。シュガーは傾向として左手前からの障害のアプローチだと外に逃げるように反抗する素振りを見せていたので、今後シュガーのチーフになる人にはそのことを頭に入れておいてほしいと思います。雪が溶けてからは高さのある障害を飛ぶ練習にシフトしていきました。このあたりから今まで通りの週6日の練習が許可されたので、基本的には週1日は馬場鞍で馬場運動、週3日は歩度の詰め伸ばしを中心としたFW、週末は単発、もしくはコンビネーションで障害練習をおこない、どちらか1日では高さをつけるという練習サイクルで行っていきました。馬の年齢も決して若いほうではなく、歩様が悪くて練習ができないほどではありませんでしたが脚の状態にも不安があったためFWの日を常歩での馴致のみにしたり、障害飛越の量を減らしたりしながらの練習にはなりましたが、4月末の部内戦ではLCクラスを減点0で問題なく完走できたり5月末の段階で105cmまでは安定して飛越できていました。110cmにすると途端にひるんでしまっており、まだ人の技術面にも不安があったため今後の課題として7月中旬までには110cmの高さで経路をある程度回れるようにすること、そして苦手な左手前でのアプローチでも右手前と同じように安定して飛越できるようになることを目標に練習していくつもりでしたが、このあたりで若林にバトンを託す運びとなりました。

また、春先にかけて手入れ最中の反抗が目立つようになりました。シュガーの場合は人を見て反抗するかを判断しているという感じであり、特に下級生の引馬の際に人の指示に従わずわがままな態度を見せるという感じでした。また、シーズン最初のノーザンの輸送の際にはかなり興奮して手が付けられない状態になってしまうこともありました。これらの対策としてRelax me（興奮を取める作用のある粉末状のサプリ）を飼葉に入れる、もともと飼葉に入れていた麦の量を減らすといった対処をとりました。反省としましては、過去の部報をみてもわかるようにもとより気性に難がある馬でありましたので、脚のケアのために運動量を減らすと同時に麦をはじめとする飼葉の量をあらかじめ減らすといった対処も取れたのではないかと考えています。今後も脚の不安のために運動量を減らすこともあると思うので、それを踏まえて飼葉の中身を考えることが大切ではないかと思えます。拙い文章ではありますが、以上で私からの調教報告を終わらせていただきます。

## 若林 壮真

私は2021年の7月から前任の武井から引き継いでシュガーの馬責となりました。経緯としては、武井から、事情により騎乗を続けることが困難となったため、別の人シュガーと北日を目指してほしいという申し出があり、手を挙げた私が譲り受けたという形です。



私が馬責となってから現在まで常に課題として向き合っているのが、シュガーと人が如何にして良好な関係性を築けるかということです。

はじめに取り組んだことは、調馬策で人との関係性を再確認することです。というのも、5月の新緑大会でノーザンホースパークに連れて行った際に、外部で乗るのが久しぶりだったというもあり、シュガーの興奮状態が高く、策を回しても人の制御下に収まらず、抑える手を振り切り放馬してしまうということがありました。そこで、7月後半に行われた夏季大会、講習会に連れていく数週間前から、少なくとも北大では落ち着いた状態で策を回せる必要があると思い、夕方の手入れの時間に策を回すようにしました。シュガー自体しばらく策を回されていなかったこともあり、初期段階では右手前を回す際に中心を向き止まるなど苦戦することもありましたが、少しずつ要領を覚えて試合当日までには上方、下方移行共に人の音声扶助に伝えてくれるようになりました。また、興奮しがちな馬への鎮静効果があるとされているリラックスミーというサプリを、飼いに混ぜて与えるようにしました。これが功を奏したのか、大会期間に手に負えないほど暴れることはありませんでした。



馬と人との関係性をはかる簡単な手段に、曳き馬がありますが、シュガーはこの曳き馬に難点があります。馬の扱いにまだ不慣れな下級生が行うと、勝手に草を食べようとしたり、暴れて走り出したりと人を舐めて反抗できる瞬間がないか常に伺っているような、シュガー本位の状態が常でした。そして、9月半ばに曳き馬中に事故を起こしてしまいます。強風、他の馬に反応して暴れて走り出したシュガーが、曳いていた2年生の右腕を後ろ蹴りし、複雑骨折、脱臼の怪我を負わせました。比較的手入れに慣れて信頼していた2年生の事故とあって、曳き馬の体制、方針を根本的に見直す必要がありました。手入れを行

う人数は、可能な限り二人以上で行うようにして、上級生は下級生が曳き馬を行う際には常に目の届く場所で監視、監督する、馬のテンションが高かったり、強風など危険が予想される日には、無口頭絡の上からチフニービットと呼ばれる制動力の強いハミを装着して行うということを徹底しました。チフニービットの効果は絶大で、必要な時に限り適切に使うようにすれば、装着さえしていれば下級生でも反抗する兆候を示さず曳き馬を行えるようになりました。加えて、前述のリラックスミーを大会輸送前などに関わらず常に与えるようにしました。以上は道具に頼った部分ですが、曳き馬の方針については、江口監督などからの指導を受けて、馬主体から人主体に変えるために、常に馬の意識が曳いている人に向くように努めました。具体的には、馬に頻繁に指示を与え続けて、停止、発進、後退、歩度の詰め伸ばしを繰り返し、正しく従ってくれた時には愛撫や言葉で褒めることを続けました。12月末現在は、シュガーサブであれば1年生でも落ち着いて曳き馬を行えるようになりました。

運動に関しては、終始シュガーの肢の状態と隣り合わせで、人の思い通りに調教を進めていくことは難しいものでした。7月半ばにはそれまであまり気にならなかった後肢の球節上の浮腫のようなものが、前肢にも現れ、肥大化して熱を帯びるようになりました。原因としては、北大の砂の層が薄く硬い馬場で、部員数が増大したことにより運動量が増加し、一日4鞍以上が続きシュガーが負担を蓄積したことが考えられます。運動後と、夕方の手入れの際に水冷を行うことを続けましたが、一時的に熱は収まるものの、腫れの根本的な解決には至りませんでした。装蹄師の國藤さんに相談したところ、浮腫は一度出来ると中々改善することは難しく、ケアしながら付き合っていくしかないと言葉を受けました。夏季大会まで肢の状態が運動に影響することはそれほどありませんでしたが、以降は急激に歩様が悪化し、跛行が目立つようになりました。それに伴い、常歩、速歩までの運動が多くなりました。夏季大会ではLB競技こそ完走は出来ましたが、左回転で障害にアプローチする際に右側に避けるようとする癖が現れました。8月半ばの国体予選では、歩様の悪化に伴い一切障碍練習を行えることなく当日を迎えることとなってしまいました。しかし、ノーザンに入ってから肢の調子が良かったためエントリーしていたLB競技に出場しましたが、前回の課題の解決に至っておらず、結果左回転で外に逃げられ2反抗失権で終わりました。翌日の1スター競技は、再度歩様が悪化したことを受けて出場を辞退しました。

こうした厳しい状況ではありましたが、シュガーは北日で結果を残すことが期待される数少ない馬であったため、何とかして北日に出場するため色々と試行錯誤を行いました。シュガーの歩様は、悪化しても数日休ませると改善しますが、再び駈歩まで運動すると翌日以降歩様が悪くなってしまいました。予定されていた北日開催まで1か月に迫る中、何とかして練習を確保するため、無理をお願いして北日まで私以外は常歩までの運動に制限してもらいました。それまでの運動と歩様の状態を顧みると一日一鞍20分程度の駈歩までの運動であれば、翌日も歩様の悪化が見られず運動を行えたからです。さらに、肢の状態の改善を図るため、老廃物排出効果があるといわれているタフロックというクレイ製品を肢の腫れ部分に塗るようにしました。流れとしては、夕方の手入れの際に、しっかりと水冷して熱を取り、タオルで水分を拭き取り乾燥させ、肢の腫れ部分を少し分厚くタフロックで覆い、その上にラップを巻いてタフロックの乾燥を防ぎ、さらにその上から肢巻を巻いて軽く圧迫するというものです。翌朝の騎乗前にタフロックをはがすと、腫れが退いていることがあり、続けていくことで少なからず効果があったように思われます。

こうして迎えた北日でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年に引き続き、北大の馬場でのオンライン開催となりました。全日出場への可能性をわずかでも上げるため、総合に加えMD競技、馬場のL1課目、さらには北日本選手権にもエントリーし、出場出来るものには全て立候補したような形となりました。結果としてはいずれも全日出場には至らず、悔やまれる結果となってしまいました。

馬場馬術に関しては総合の調教審査1スター課目については、最終得点率55.3%で個人的な最低目標は達成できましたが、他の2競技については直前に申し込み、先に障害を撮影したこともあり肢の状態がとても悪く、本番当日にぶっつけ本番で挑むような形となってしまい、不本意な結果となりました。

障害飛越競技では、認められた数回のトライの中、前半数個の障害を飛越することはありましたが、やはり課題の左回転の克服には至っておらず、次第に機嫌を損ねさせてしまい一切前に進まなくなって続行を断念しました。

障害で失権したこともあり、北日でシュガーはクロスカントリーを走ることはありませんでしたが、野外馴致に関してシュガーは北大の馬の中で最も得意としています。昨年までの印象としては水濠障害が少し苦手な、乾濠障害は克服不可能というものでしたが、北大の馬場に設けた水濠を武井が毎日馴致してくれたことでノーザンの水濠はほとんど怯まず、乾濠については7月末の講習会で広瀬さん、楠木さんの追い鞭を用いた熱心な指導を受けて克服するに至りました。こうして野外では向かうところ敵なしのシュガーですが、野外を走った後は出来るだけ走らせないように注意しても、常に歩様を悪くしてしまいます。適正はありますが、来年以降の野外馴致については、様子を見ながら慎重に判断していこうと思います。

10月に行われた地区大会には、私は競技には出場せず、後輩の下乗りで参加しました。試合初出場の2年生二人が60センチクラス完走、A2課目で55%程度獲得を果たし、下級生がデビュー戦を飾るにも最適な、それなりに動かしやすい馬であるところを見せてくれました。

11月以降は跛行が目立ち、しばらく馬休にしたもののあまり改善が見られないため、國藤さんの助言に従い一か月間ほどほとんど常歩だけの運動に抑え、しっかりと休養期間を取らせました。その中でも出来るだけ元気よく歩かせ、横運動などを取り入れ脚反応を鈍くしないよう心掛けています。12月中盤によく雪がしっかりと積もってからは、それまでは馬場よりも地面の柔らかい農場で歩かせるようにしていましたが、馬場で運動を再開しました。11月中しっかりと休ませたことで肢の腫れは7月以前と同程度まで収まり、熱もほとんどなくなりました。最近は、歩様が改善したこともあり、駈歩まで運動することもあります。やはり運動量が多くなると歩様の悪化が多少見られます。出来る限りシーズンオフの冬は休ませて負担をかけず、来シーズンを見据えた運動を出来たらと思います。直近の課題としては、シュガーがハミを受けた状態で運動し、手前変更や上方、下方移行するときにハミを外されることなく維持して乗れるよう努力しようと思います。

シュガーの馬責となってからの半年間は、頭を悩ませ、苦勞することも多かったですが、それ以上に未熟で知識、技術ともに乏しい私にたくさんの方で経験を積み成長させてくれました。改めてシュガーと、関わってくれた方々には感謝しかありません。シュガーの競技寿命を少しでも長く維持し、シュガーのことを大好きな後輩たちが今後とも乗っていけるように、残された時間を有意義に大切にしていこうと思います。

◆北稜号 (ダノンアンチヨ) ◆



サラ セン 芦毛  
生年月日 2007年2月18日  
北海道勇払郡安平町  
父 Unbridled's Song  
母アンチヨ  
入厩日 2015年12月4日

田中 沙季

昨年に引き続きアンチヨの担当をさせていただき、今年は全日二走を減点0で完走することを目標に取り組んできました。結果としてはシーズン中盤に裂蹄となっしまい大会出場は叶わなかったのですが、2年間乗ってきた経験を踏まえ、来シーズン以降アンチヨに乗る後輩に向けて調教報告をします。

まず、アンチヨの主な課題としては、1. とても重いこと、2. 右手前が苦手、の2つが挙げられると思います。

1. とても重い

拍車と鞭は必須です。乗り始めて脚反応を良くしておかないと人が先に疲れてしまうので、乗った直後の5分くらいが勝負だと思います。よく言われていることですが、脚使う→効かないなら拍車使う→効かないなら鞭使うという動作をいかに瞬発的にやるかが大切です。後は人のバランスや騎座で馬を邪魔しないようにすることが重要です。お尻でべったり座りながらかかとで脚を使い続けてもアンチヨは動きません。脚に集中すると騎座とバランスへの意識が薄れがちなので、常に冷静に、必死になりすぎないように乗ると良いと思います。あとは詰めっぱなし、伸ばしっぱなしにならないよう運動内容にメリハリを付けることで、脚反応が良くなってきます。

2. 右手前が苦手

これは私の癖の問題もあると思うのですが、輪乗り飛越の途中で左手前が変わったり、右回転で内に倒れてきたりすることが多いです。これを改善するために、人が右の坐骨でしっかり座ることを意識していました。アンチヨ以外の馬で右姿勢の練習をして、アンチヨにも正しい右姿勢で乗り続けられるようになれば改善されると思います。それからコース走行では内に入ることを見越して、右回転は大きめに回るようにしていました。

また、昨シーズンはアンチョで大会に出た後輩がいないので、大会時のアンチョについてアドバイスしておきます。アンチョは経路走行になるとやる気スイッチが入り、普段の鈍さを感じさせない走りをしてくれます。普段と全然違うので、慣れないとついていくのが難しいかもしれません。経路走行で大切なのは、走られすぎの一步手前まで元気よく動かすこと、障害間の狭いときはしっかり詰めることです。普段の練習と同じ感覚で乗っていると、走られていると思うかもしれませんが、思っている以上に走って大丈夫です。そしてこれと同じくらい、詰めることも重要です。アンチョはストライドが大きいので、一般的なダブルやトリプルの間隔だと、歩度を詰めないといい位置で踏み切れません。踏切が詰まると上に大きく飛ぶので随伴が難しくなるし、アンチョも自信を持って飛べなくなってしまうので気をつけてください。試合での乗り方については人の慣れも必要なので、たくさんノーザンの大会に出て経験を積むのが一番大切だと思います。

まだまだ伝えたいことはたくさんあるのですが、書ききれないので調教報告はここまでにしておきます。一応8月までは札幌にいる予定なので、何かあれば相談してください。これからも、可愛くてカッコいいスーパーホースのアンチョを、よろしくお祈いします。



◆北響号 (カノンコード) ◆



サラ セン 芦毛  
生年月日 2006年2月25日  
北海道勇払郡早来町  
父クロフネ  
母ポップス  
入厩日 2015年4月7日

北出 右京

まずはじめに、カノンコードに携わってくれた全ての方々、相談に乗って頂いたOBの皆様に感謝いたします。私1人の力では到底今年度を乗り切ることはできませんでした。ありがとうございました。

今期は来期も視野に入れつつ、どんなレベルの騎乗者であっても、ノーザンでの小障碍クラスを安定して帰ってこれる馬にすることを目標にしてきました。

しかし、私自身の能力が余りにも低く、今期はカノンの調教を進めるというより、どういふアプローチをしていくのか模索する一年であったように感じます。

終始一貫して課題だったのは、下方移行がしにくいことです。元来脚反応の良い馬で、雑な扶助でも馬が察して動いてくれるのですが、手綱を強く持つと、綱引きの如く引っ張り合いになってしまい、のめり込んでしまいます。はじめは頭頸を高い位置で維持し、馬体のバランスを起こすことで後肢に体重を乗せていました。しかし、彼は本来前重心であり、サラブレッドの重心を無理矢理変えるのではなく、元々のバランスを尊重して乗っていった方が上手くいくのではないかとの指摘を受けて、馬銜を受けさせて後肢を動かしていく方向に転換しました。これにより、下方移行の課題は快方に向かったものの、馬銜を受けた状態でも馬体は収縮せず、どうしても頭頸が伸展してしまう問題に直面しました。現在、脚を使い後肢を踏み込ませて、その力を拳で受け止めて、より頭頸が高い位置で屈撓するように調教を進めています。冬季にFWの完成度を高め、シーズンの運動に繋げていきたいです。

障碍飛越に関して、今期は余り手を出せなかったのが正直なところでした。原因の一つとして、跛行が多く、毎日安定して強い運動を行えないことが挙げられるでしょう。左後の球節に巨大な腫瘍が存在し、ある時は熱発し、またある時はそこを庇って他の脚に支障が出たりと、カノンは障碍の調教を行う以前の問題を多く孕んでいます。それでも、彼は障碍

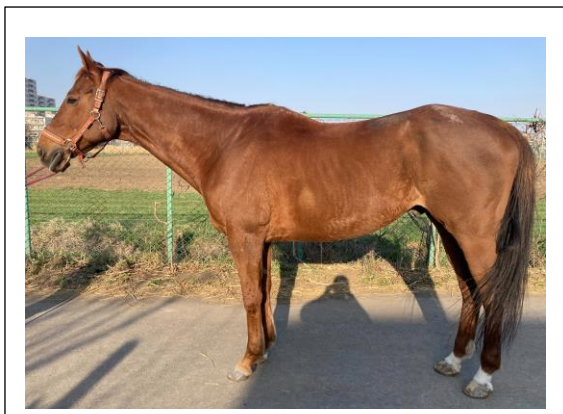
に対して前向きであることは伝わってきました。入りさえ真っ直ぐにしてあげれば、多少の人の邪魔を物ともせず飛越してくれました。来期は水準をさらに上げていきたいと考えています。

前述した、左後の腫瘍に対しては主に肢巻で対処していました。相当熱がない限り、1日12時間程度圧迫しました。運動後には必ず水冷を行っています。結果として、腫瘍の拡大は抑えられたように感じます。しかし、騙し騙しで運動を続けてきた付けではありませんが、遂に右前にも浮腫が見られるようになりました。これを受けて、今シーズン終わりに離厩をすべきか否かをサブ内で、また部全体で話し合いました。一先ず来期までは北大馬術部に置いておく結論に落ち着きましたが、運動内容や強度については今一度考え直していきます。

最後に、脚が悪い中1年間私たちを乗せてくれたカノンコードに甚謝申し上げます。来期もよろしく願いいたします。



◆北汐号 (タイダルベイスン) ◆



サラ セン 栗毛  
生年月日 2010年3月6日  
北海道日高郡新ひだか町  
父アグネスタキオン  
母ワシントンシティ  
入厩日 2015年7月9日

植田 咲喜

昨年に引き続きベイスンのチーフを担当させていただきました。

今年の目標は昨年の反省を生かし、総合で北日に出場することでした。そのために、シーズンの当初から馬場と障害を並行して練習し、加えて、北大のバンケットや水壕で馴致も進めました。以下には試合シーズンまで（10月まで）の障害の練習、馬場の練習、そして試合シーズンが終わった後の練習について記したいと思います。

まず、試合シーズン中の障害について、昨年からの課題はベイスンのバランスが前重心になってしまうことと、右姿勢が苦手な障害前で左肩を張ることが多いことでした。4月、障害の練習を本格的に始めましたが、コースになると馬のスイッチが入ってしまい、走られて障害を切られるということが多かったです。そこで、5月の試合は中止になりましたがノーザンファームの広瀬さんに見ていただく機会があったので、実際の経路を用いてご指導いただきました。内容は横運動などFWの後、間が短めのコンビネーションを跳び、アリーナでコース回りをしました。最初は前を持ってもどンドン突っ張ってくるだけでしたが、障害前に小さい巻き乗りを入れること、ハミははみ出た分だけ持ってすぐ返すことを教わり、馬自身が良いバランスを保ってくれているように感じ、障害を勢いではなく力強く飛んでくれました。ベイスンと一緒に目指していく理想の形が分かりました。日頃の練習については、前・後肢旋回と斜め横歩ではみに出した状態で運動すること、直線を走らせるのではなく試合の経路を意識して手前変換、フライングチェンジなどを取り入れることを学びました。それまではとにかく前を出して走らせることをしてきていましたが、それはあまりよくなかったのかもしれませんが。そこからのシーズンは広瀬さんに見てもらった時のベイスンを再現するためにずっと練習方法（特にウォーミングアップ）を模索してきました。広瀬さんに見てもらった時はアリーナで馬が興奮している状態だったので、まずはそれぐらい馬をしっかり動かすことが必要でした。しかも、後輩の練習と両立させるにはそれを短時間でする必要があり、十分に動いていないまま障害練習をしてしまい、ベイスンに怖い思いをさせたり、障害前で追いすぎたりすることにつながりました。また、



広瀬さんに見てもらった時のようなゆったりした力強い駈歩を作ることにも苦労しましたが、シーズンの最後の方にはようやく少しつかめたような気がしました。今シーズンの反省としては馬が前にのめらないことを意識しすぎて障害に向かういいリズムが作れなかったこと、私がかまくいかに焦り、無理な練習や試合での失敗を続けたせいで馬の障害に対する前向きな姿勢が損なわれてしまったことが挙げられます。



次に、試合に向けた馬場の練習についてです。北日のエントリーを決める時期に、ベイスンが障害ではまだ目標に達しておらず、北日への出場は難しいと判断しましたが、総合のために出ていた馬場である程度良い成績を出せていたこと、学生女子選手権に出場したいと思っていたことからL1課目に出場することにしました。そのため、8月中頃から北日撮影の9月中頃までほとんど馬場をメインに練習しました。ベイスンははみ受け、移行、横運動についてはとても従順でした。しかし、馬場の練習を続けているうちにストレスが溜まってきてしまい、反対駈足など馬に無理をさせる運動で反抗が出てきたり、入退場で真直性に欠けること、シンプルチェンジの精度など課題がありました。ストレスについてはたまに低めの障害を飛ばせたり、放牧を多めにして解消しました。真直性については元気よくすること、停止は半減脚と騎座をメインで使うことを意識し、シンプルチェンジ

は姿勢の入れ替えの前に馬体をまっすぐにしてから入ること、しっかり収縮した駈歩を作るなど準備を意識しました。ベイスンのおかげで北日本女子選手権で優勝し、全日本選手権に出場することができました。ベイスンは馬場に向いているのではと言われることもありますが、もともと腰を痛めやすく、反動が大きいため、乗る人の技術によってはベイスンに大きな負担をかけてしまうので、障害で活躍できる馬にしてあげたいと思っています。

3つ目の試合シーズンが終わった後の練習についてです。シーズンが終わった後は、ベイスンの障害に対する前向きな姿勢を取り戻してもらうため、低い障害を良いペース、リズム、バランス、コースで失敗ないように飛ぶことを江口さんのご指導の下行いました。隣でクライムやドラゴンが高い障害を跳んでいるなか、正直焦りはありましたが、来年のためにベイスンのメンタルの回復に重点を置きました。また、ベイスンは少し臆病なところがあるので、冬季にいろいろ派手なものをまたがせたり、低めの野外障害を跳んだりして馴致も進めました。

馬体については、足元が悪くなることはほとんどなく、鞍傷は出来ましたが昨年の部報に書いたような方法で処置しました。しかし、冬季に記録的な寒さであったからか、腰や背

中の筋肉が固まって動きづらそうにする時期があり、その時はネックストレッチをつけて策を回してから乗るとスムーズに動きました。騎乗時の腰毛布、騎乗後と夕方の温浴も有効でした。

来シーズンに向けては、ベースンの弱点としっかり向き合い、焦らず着実に進むこと、恥ずかしがらずに頼れる人には頼り、結果を残すことを目標に励みます。

最後に、ご指導いただいた指導部の方々、OBの方々、下付きとして支えてくれた部員の皆さん、本当にありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

## ◆北叡号(ダノンクライム)◆



サラ セン 芦毛  
生年月日 2014年4月17日  
北海道勇払郡安平町  
父ヴィクトワールピサ  
母シェルズレイ  
入厩日 2020年9月3日

## 山中 竜馬

北叡号は昨年9月に入厩したため、本格的な調教は今シーズンから始めていきました。担当者は3年目の山中でしたが、新馬調教の経験がなかったため監督の江口兄に相談しながら進めていく形で調教を進めてまいりました。体格が大きく、障害に対して前向きだったため障害飛越競技をメインに、またあまり急がず丁寧に進めていくというのが主な方針でした。

シーズン前半に見られた大まかな課題点は

- ・回転で肩が張って外に逃げやすい
- ・障害前の踏切が不安定
- ・障害直前でやや怯むこと有
- ・ストライドが大きく細かい運動が難しい

の4つでした。程度の低い障害を繰り返し飛んだり、輪乗りの開閉で左右方向の脚を効くようにしたり、歩度の変化を意識したりするのが主な練習でした。初のノーザンでの競技会である夏季大会は60cmで出場しましたが、乗り手が焦って最終障害落としてしまったものの無事完走することが出来ました。初の野外馴致もこの時行いました。最初は初めてのところで少し慌ただしかったです、すぐ落ち着き自然大木オクサーやバンケット、乾壕は通過することができ、順調な滑り出しを迎えたと思います。

夏季大会後、スランプが見られました。飛越に前向きだったのが、少し反抗が見られるようになりました。自分が馬のメンタル面にまで気を向けることが出来ず、それでも次の競技会に向けた高い障害に挑戦しようとしたのが問題でした。そこで焦ってしまったため競技会までに立て直すことが出来ず、国体予選では2反抗失権という結果になってしまいました。その後の野外馴致で川崎兄に見て頂き、失敗させない練習・ダメだったときはレベルを下げることの大切さを学習し、以降の練習ではそれを常に意識しました。



その後の練習では馬のメンタルも回復し、障害に対して再び前向きになってきたため様子を見ながら LC クラスに向けて調教を再開した。この頃から出てきた問題点はオクサー障害・ダブル障害です。かねてより問題であった踏切の不安定さやストライドの大きさによる距離の合わせづらさが顕著に表れてきました。正直この問題点は乗り手がある程度修正するべきものであると思いますが、誰でも乗りやすい馬にするためにいつでも歩度の変化をつけられるよう普段のフラットワークから意識しました。高さの面では全く問題なく成功していましたが、プランクなど見慣れないものが入っていると見る傾向があったので、色んなものを飛ぶことを心掛けました。また、飛越後に勝手に加速する癖も見られたのでそちらも意識して馬なりにならないように騎乗しました。地区大会は個人的な理由により山中は出場出来ませんでした。2年生2人が無事60cm クラスを完走したので、下級生でも乗れる馬に成長したということを確認出来てよかったですと思います。

本来地区大会で LC クラスに出場する予定だったのですが、それが叶わなかったためホースショーの代わりに行われた部内戦にて LC クラスに挑戦しました。地区大会後からの北叡号は調子がよく単発垂直障害は110cm、オクサー障害・ダブル障害は105cm まで飛越することが出来ました。しかしながら、踏切の不安定さや物見はまだまだ健在のまま部内戦を迎えることとなりました。結果は無事減点0で完走することが出来、ノーザンホースパークでの結果ではありませんが、LC 完走実績を作るところまでは今シーズンで持っていくことが出来ました。これがシーズン最後のコース走行です。

その後は課題であった踏切の不安定さを克服するためにリードバーを常において飛越を行ったり、衝受けを人馬共にいつでもできるように意識したり、左右の寄れを瞬時に修正したりしながら騎乗しました。最終的に単発垂直障害は120cm まで持っていくことが出来、コース走行でもこのレベルまでに持っていくことが次年度の目標となりそうです。

最後に、自分だけでは馬を壊さずにここまで新馬調教を行っていくことは出来ませんでした。江口兄をはじめとした北叡号の調教に関与して下さった皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

◆北琉号（ドラゴンケーニッヒ）◆



サラ セン 黒鹿毛  
生年月日 2012年2月5日  
北海道勇払郡安平町  
父ディーブインパクト  
母カリ  
入厩日 2016年10月8日

坂本 信仁

昨年に引き続き、北琉号ことドラゴンケーニッヒ号の調教を担当させていただきました。昨年度はドラゴンと一緒に LA 完走まで到達することが出来たので、今年度は障害に対する前向きさを壊さないようにすることと、MD クラスを完走することを目標にしてみました。シーズンが終わり、最終的にあまりいい結果が残せたわけでないということはとても残念で、ドラゴンのことを気にかけてくださった方々やドラゴン自身に対しても申し訳なく思っています。原因のいくつかは私の力不足によるものだったとはいえ、もう少しなんとかできたのではないかと思います。今シーズンを振り返り、その節々で反省点が多くみられますが、後ろ向きなことばかり書いていても仕方がないので、この一年でできるようになったことや見つけた課題等について記していきます。

まず馬体面について記します。

ドラゴンは馬体が丈夫で、馬格は小さいながらも蹄もそれほど脆くなく、部員増に伴う日々の運動量の増加をうけても、頻繁に跛行するというようなことはあまりありませんでした。1,2回ほど足を痛めたように歩様が悪くなった時はありましたが、鞍数を減らしてもらったり、ある程度馬体を挟んだりすることで、元気に運動を再開することが出来ました。北大の他の馬の何頭かは歩様が悪化しやすかったり、蹄が弱かったりする中で、健康で居続けられることはとても良いことだと思います。

次に騎乗面について、できるようになったことや良かったこと、並びに今後の課題について述べていきます。

ドラゴンは私が昨年引き継ぐ前から障害に対して前向きで、アリーナ内で物見したり、よほど急に高さを上げたりしない限り障害で逃避や拒止することもあまりありませんでした。そのこともあってか、夏季大会では LA を一落で完走し、その後の野外馴致も、もともと苦手としていた乾壕以外はおおむねクリアできていました。また、シーズン最後の野

外馴致でも、水濠への飛び込みやバンケットなど野外コースのほとんどの障害をクリアし、野外馴致はとても良い状態で終わったのではないかと思います。

一方で、その前向きさに乗り手が慢心して失敗することも多くありました。具体的にはノーザンの準備馬場で十分に準備できていないままアリーナに入ることになってしまったり、そもそも大会に向けて北大の馬場での中長期的な準備が足りていなかったりということです。前者（準備馬場での準備不足）については、ドラゴンが準備馬場でチャカついてしまうことを見込んでゆとりをもって準備の時間を決めたら、思いのほか落ち着いていて準備馬場で運動する時間が間延びしてしまったり、逆に落ち着いていると思ったらそうではなくて十分動いている状態に持って行くまで時間が足りなかったりということがありました。後者（中長期的な準備の不足）については、北大の馬場では他の馬と運動内容をある程度合わせないといけないとはいえ、大部分が私の計画性の無さによるものなので、来シーズンに同じ失敗を犯さないように注意していきます。

来シーズンは、上にあげた反省点に注意し、先を見据えた計画を立てていくことや、普段の運動から時間に対する意識を強く持って運動することで、安定して結果を残せるように人馬ともに努力してまいります。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



## ◆北騮号（アップヒルティガー）◆



サラ セン 芦毛  
生年月日 2008年3月10日  
アメリカ  
父 Unbridled's Song  
母 King Shooting Star  
入厩日 2012年9月15日

井上 芽依

田中姉から引継ぎ、昨年度の冬からあひるを担当させていただきました、三年目の井上と申します。怪我や跛行により思うような運動が出来なかった一年でしたが、いろんな方々にアドバイスをいただき自分なりに考えたことについてまとめます。

あひるについて、自分が改善すべき点と考えたのは次の通りです。

### 1. 真直性

特に回転運動で肩がはみ出たり、頸だけが内に向いてよれたりして、騎手の脚がハミに対して密に透過している感じがなく、詰めた運動をするときや障害前でパワーを溜める際に横に逃げてしまっているように感じました。ある程度は勝手に前に出てくれるので、それに任せて後肢を動かせていなかったり、そもそもハミに出せていない状態で運動していたりすることがあったと思います。

### 2. 内方姿勢

1にも関連することですが、特に速歩での右姿勢が取りにくく、側方脚への反応も鈍いため、切れ込んだり膨れたり、それに伴って馬が焦ったりすることがありました。内方姿勢をとらせることを意識しすぎるよりはむしろ外方に向けるくらいのイメージで乗り、焦るようならすぐにペースを落として、いい姿勢で乗れるところで運動していけるように意識しました。

### 3. ハミの受け入れ

当初、あひるはハミ受けどころか譲らせることすらほぼ望めない、出来たとしても馬の良い部分を潰してしまうのではないかと感じていました。11月に高橋姉に乗っていただく機会があり、そのときに、完全にハミ受けまで行かなくても頭を上げたり振ったりしない位置であひるにとってのいい状態がつかれるのだということを知ることができ、それを維持できるペース、運動内容を拡張していくという目標で運動していきました。

#### 4. 精神的な問題

焦りやすい、パニックになりやすい性格が災いして、障害や経路などに対して必要以上に身構えたりプレッシャーに感じて、障害前で走りこんだりそのまま大飛びしてしまうことがあります。真面目で怖がりな性格によって一見障害に対して前向きであるように見えますが、高さが上がってくるとそれが切られたり反抗されるという形で表れてくるのではないかと考えました。騎手の不十分な随伴、誤ったタイミングでの扶助が馬のパニックを誘発・悪化させていることは間違いないので、まずは人が馬に対してのルールを守ること、すなわち応えてくれたら必ず楽にすること、絶対に人が焦らないことを意識して接するようにしていました。また運動のはじめとおわりには必ず長手綱で乗ってリラックスさせるようにしました。

1年を通じたおおまかな運動内容は以下の通りです。

4,5月は慢性的な左前肢の球節上部の腫れと、歩様の悪さにより馬休の日が多かったです。運動できては速歩か、調馬索程度でした。そのためもあってか馬休明けには左右への脚反応が鈍く、柔軟性も失われているように感じたので、並歩のなかで肩内や前肢旋回、キャバレッティ通過などを行いました。

2か月休ませても改善しなかったため、6月に入ってから運動をしていくことにし、索中心に駆歩までの運動を挟んでいき、輪乗り飛越やクロスでのミニコース練習も行いました。7月初週にはクロスで部内試合に出場しましたがかなり走られてしまい内容的にはあまりよくなかったと反省しています。

しかし部内試合後あたりからまた跛行が見られ、7月の大会の際に川崎さんに相談させていただいて、「左前球節の炎症については付き合っていくしかない、大会に出るのは不可能ではないが、急がないならばしばらく休ませたほうがいいのではないか」というふうに伺いました。ここで馬に無理をさせるのも本意でしたし、諸先輩方から引き継いだあひるを後輩に残したいという気持ちもあったので、無理せず今年は北日への出場を見送るということにし、しばらく休ませることにしました。

それに加えて8月末、厩舎内の鉄材に引っ掛けて蹄が欠けてしまったためになかなか満足に運動することができませんでした。

左前肢球節と、欠けた蹄の状態が思わしくなかったため、雪が降るまでは蹄の負担になりにくい農場で速歩をし、最低限筋肉が落ちないように心がけました。10月に入ったあたりでやっと問題なく運動できるようになったため、長い馬休によって効きにくくなっていた脚反応や詰め伸ばしの確認を行いました。

11月以降は高橋姉のアドバイスをもとに、リハビリも兼ねて、左右の輪乗りを一定のペース・良い内方姿勢であることを目標に運動し、同時に今まであまりやっていたハ



ミ受けの練習も行っていくことにしました。後輩の鞍がついていても、出来るだけ最後に自分が乗って、焦らずにハミをある程度受け入れたいい状態で終われるようにしました。冬季は基本FWで、雪が解けるころに重点的に索を回したり、FWの中での拾い飛びなどできたらと考えております。

最後に、あひるは能力も高く、先輩方が積み上げてくださったおかげで調教も進んでいる馬です。足元の不安もありましたが、それ以上に人の力量不足であひるのポテンシャルを活かしきれなかったことが悔しいです。至らぬ自分ですがなんとか人の実力を上げて、来年度には大会に出て好成績を修め、また後輩に受け継いでいくことができると考えております。相談に乗ってくださったり応援してくださった方々、頑張ってくれたあひるには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



## ◆北陽号（ノガロ）◆



サラ セン 栗毛  
生年月日 2013年2月7日  
北海道勇払郡安平町  
父キングカメハメハ  
母ムードインディゴ  
入厩日 2017年9月24日

石田 隆悟

昨年の冬から約1年間ノガロのチーフとして活動してきました。今シーズンはノガロメイ  
ンで試合に出場する選手がいなかったため騎乗による調教担当として3年目山中を、来年  
以降のメイン選手として2年目筒井を副チーフとしてサブに迎え、3人体制で調教を進めま  
した。

まず選手がいなかったため試合を目標にした練習が行われず、秋冬と下級生の鞍数増加に練習  
馬として貢献してきました。フラットワークに関しては持ち前の馬体の丈夫さ、扶助の軽  
さ、反動の少なさと誰に対しても大きく態度が変わることのない性格で基本練習の確認や  
馬に乗ることの楽しさを下級生に伝えてくれたと思います。

しかしその影響もありシーズン開始頃はとても試合に臨めるような状態ではありませんで  
した。障害嫌いは悪化しており、ゼロからというよりマイナスからのスタートとなってし  
まいました。1度障害を完全に嫌いになってしまっているため、新馬調教よりも難しいこ  
とが予想され慎重に確実に進んでいくことを常に意識しました。

障害前のアプローチの段階で姿勢が歪んでいると右に加速して逃げる癖を直すために、回  
転での姿勢矯正から始めました。輪乗りの右手前で倒れこまないように内包脚で支えて馬  
体を起こす運動をフラットワークに組んで行いました。

また例年課題に上がる下方移行に関しても取り組みました。引っ張り合いになると、加速  
し

収集がつかなくなる場面もあったので、4年目田中姉の指導の下、半減脚と人のバランス  
バックによって手綱に任せずに指先のわずかなコンタクトで下方移行させる練習をしまし  
た。特に速歩から並歩に落とすのに時間がかかり、人も馬も焦ってしまうのでコンタクト  
を張る時間と許す時間を明確に分けて分かりやすい扶助が大切だと感じました。下方移行  
が軽い力で行えるようになると今度は並歩を通り越して停止、後退してしまう癖が表れ、  
歩度を詰めようとするとそのまま止まってしまうことが増えました。これに関して元気の

良さを保ちながら歩度を詰めることで手綱と脚をバランスよく拮抗させながら運動することが効果的でした。



以上の様な障害以前の課題を踏まえたうえで、横木通過、青ブロック障害など最も低い障害から始めました。精神的な障害嫌いを克服するために、とにかく簡単な障害を毎日、少しでもいいので飛びました。索が回しやすいこともあり索での自由飛越にも挑戦しましたが、地上から焦りを落ち着かせることができず走られてしまい落ち着いて飛ばせることは困難でした。9月頃から4年目田中姉、3年目山中、坂本など確実に飛ばせられる部員が中心となり騎乗し高さを上げていきました。10月に梁川さんが教えてくださったコンビネーション（※1）はコンビネーションが大嫌いなノガロでも挑戦することができ、障害が飛べると意識が以前よりは得られたと思います。10月の部内戦までには単発障害100cm

まで飛ぶことができるようになりました。しかし飛べる部員が乗らないと難しいことや、数回失敗してしまうと気持ちが完全に切れてしまうような根本的な課題は残ってしまいました。その後は下級生、主に筒井でも飛べるように調整し、部内戦では山中（60cm）、筒井（クロス）ともに反抗0で回ることができ、やっと以前のノガロに戻せたような印象でした。しかしA2課目で大会に出た際やコース走行などノーザンホースパークへの復帰はまだまだ時間がかかりそうだと感じるシーズンでした。

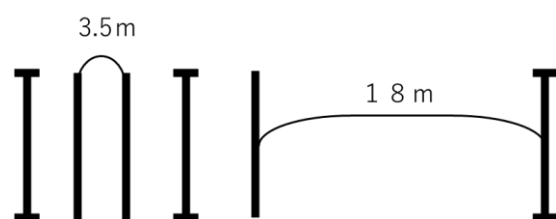
シーズン終盤には右肩を原因とする跛行が見られ、再発を繰り返し12月の現在も完全回復はできていません。熱や腫れはなくこれといった処置が見つかっていないこと、長期の馬休でも回復が見られなかったこと、右回転以外の運動は通常通りできることも踏まえ、運動の可否や回復の見込みが分からず現在方向性を持った対応が取れていない状態です。

騎乗面以外では、自分の騎乗技術が乏しく、騎乗での調教は山中をはじめとした選手の部員に頼ってしまう場面が多かったため自分は地上での扱い（グラウンドワーク）に力を入れました。ノガロの蹴りや噛み癖などの課題と共に、障害を飛ぶにあたっての曳き馬での関係づくりなど、これまで練習ではあまり注目されてこなかった手入れなどの馬と接する時間も大切だと感じ、見直しました。指導部の堤兄を中心に、厩務員として働いている方の意見も取り入れ、かわいがる、お世話をする馬の家来ではなく、馬が群れで求めるリーダーとしてノガロに接してきました。我が強く、寂しがりでとても従順とは言えない性格なので、根気よく関わる人全員が続けていかないといけないことも痛感しました。

最後に、正直なところ今シーズンでノガロでの下級生の障害練習までたどり着くことはできず、ノーザンで障害を飛ぶこともできませんでした。また北大に来てほぼ初めて跛行し

肢の状態も悪く運動があまりできておらずこれまでの成果が失われてしまいそうで残念です。秋まで順調に進むことができ、来シーズン開幕と共に大会への復帰を考えていたため、流れが止まってしまいとても悔しいです。足が回復すれば、丈夫な馬であり多くの下級生の鞍数を稼いでくれると思います。得意なフラットワークはもちろん部班や姿勢などの練習や、索も従順に回ってくれるため基本的なことであれば様々な面で貢献できると思います。来シーズンは筒井が大会に出場すること最大の目標に掲げつつも、下級生にとって索ではじめてリズムや騎座の感覚をつかむ馬、部班ではじめて駆歩発進をする馬、はじめてA2課目を回る馬といった次のステップに行く際の第一歩としてのポジションを確立していきたいです。

メニューを一緒に考えてくれたサブのみんな、指導、アドバイスをしてくださった監督、先輩方、そして一番頑張ってくれたノガロに感謝します。ありがとうございました。



※1 コンビネーションの例

---

## 入厩報告

---

### ◆北駿号（テイエムシュンソク）◆



サラ セン 芦毛  
生年月日 2017年5月1日  
北海道新冠町  
父クロフネ  
母アドマイヤライト  
入厩日 2021年6月18日

武井 陸

6月18日にモモセライディングファーム様より入厩いたしました4歳葦毛のサラブレッドです。北大に来る前は、2020年の8月の中央競馬を最後に引退した後に迫分ファーム様、モモセライディングファーム様の方で練習馬として活躍したと聞いております。まだ4歳と若い馬ではありますが、乗馬の調教も進んでおり既に下級生の練習でも活躍してくれています。初めての大会ではうまくいかない場面もありましたが、ノーザンの野外馴致では初めてとは思えないほどに障害に対して前向きな姿を見せてくれました。今後の活躍が非常に楽しみです。

調教は井上、武井（共に3年）を中心に進めていく予定です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

◆北蒼号（キタノブルー）◆

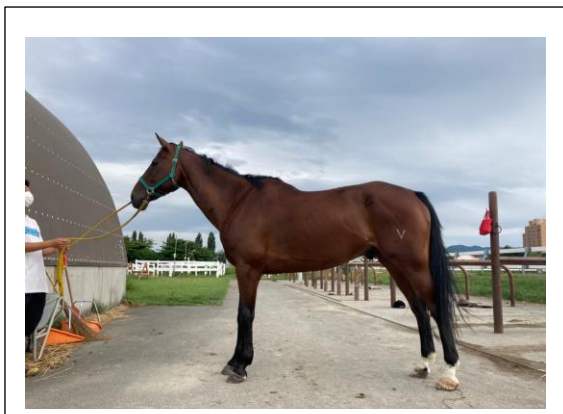


サラ セン 鹿毛  
生年月日 2017年2月13日  
北海道日高町  
父ディーブインパクト  
母オールウェイズウィリング  
入厩日 2021年6月18日

早貸 虎之介

5/19 にモモセライディングファームから北大馬術部に仮入厩。1ヶ月の試用期間の後正式入厩。当初は慎重さを欠いたせいで瞬く間に暴れ馬に変貌し、とてもじゃないが練習馬としては使えない状況にしまいました。丁寧に調教を重ねた結果、今では一年生の部班でも落ち着いて運動できるまでになりました。普段は大人しく脚元も丈夫なため益々の活躍を期待できます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## ◆ディアード◆



セン 鹿毛  
生年月日 2007年6月4日  
父パンサー(ウェストファーレン)  
母ハイティー(サラ)  
入厩日 2021年4月4日

阿部 悠和

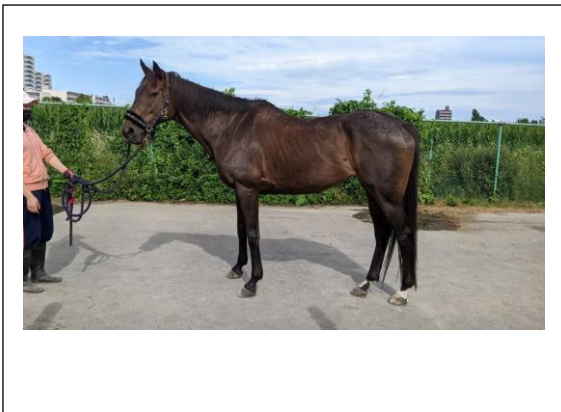
6月からディアードの担当をしている2年目の阿部悠和です。

ディアード号は部員数の増加に伴い大会を目指すための競技馬、また下級生のための練習馬が足りないとの理由で、4月にフロンテア乗馬クラブさんからもらい受けることになりました。乗馬クラブではほぼ毎日放牧され、のびのびと暮らしてきたせいも、北大でのハードな運動が大きな負担となり、入厩当初には筋肉痛や疲労、そしてそれを原因とする跛行が多々起こりました。しかし、指導部馬体管理担当である川崎さんに診ていただいたところ、ちゃんとした運動が出来ているなら問題ないだろうと仰って下さり、馬休期間を設けながらも日々こつこつとトレーニングを続けてまいりました。

現在は筋肉もつき、かなりいい運動が出来ております。ある程度の運動を行っても大丈夫だと言える状態にまでなりました。時々見せる父(パンサー)ゆずりの才能にも驚かされません。

13歳ということもあり、成果が形としてすぐには表れないということは重々承知しております。しかし、彼のポテンシャルを信じてこれからも向き合い人馬ともに向上していこうと思っております。(2021/11/26)

◆セノーテ◆



サラ 牝 鹿毛  
生年月日 2007年4月23日  
様似町(スイートファーム)  
父 シックスセンス  
母 チャップ  
入厩日 2022年1月19日

武井 陸

1月19日に軽種馬育成調教センター様より入厩いたしました15歳鹿毛の牝馬です。2010年に中央競馬を1戦、引退後は軽種馬育成調教センター様で主に初心者の練習馬として活躍したのちに北大へと入厩しました。小柄な体格で少しうるさくなるときも見られますが、扱いやすく低めなら障害もできるとのことなので、主に下級生の練習馬として活躍してくれると思います。

年を重ねてはいますが、脚部に問題はないので長期の活躍が見込めると感じています。牝馬で扱いに苦労することもあるかもしれませんが、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

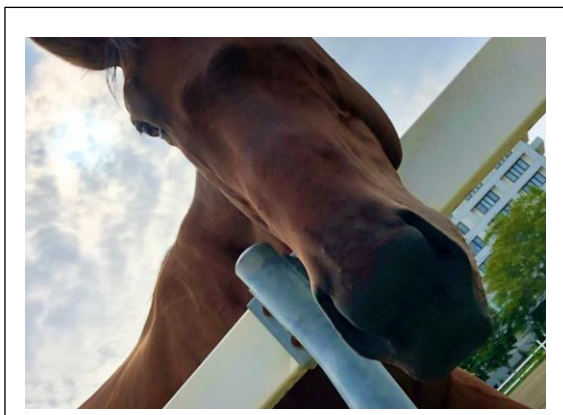


---

## 離厩報告

---

### ◆ファンキーボーイ◆



サラ セン 鹿毛  
生年月日 2018年3月23日  
北海道勇払郡安平町  
父マクフィ  
母スターシンフォニー

駒田 智美

今年の6月18日にモモセライディングファームより入厩いたしましたファンキーボーイですが、7月15日運動中に左前肢を負傷し、1ヶ月程跛行が続いていましたが、9月初頭にひき馬中に転倒して左後肢にも跛行が見られるようになりました。どちらも外傷によるもので、傷が治れば運動を再開できるのではと思い傷のケアを続けておりましたが、傷が関節に近かったこともあり、傷周囲の腫れ及び歩様の改善が見られなかったため、10月18日にモモセライディングファームにお返しすることとなりました。温厚で素直な性格で、低い障害は臆せず飛越する、非常に素晴らしい馬でしたが、このような結果になってしまったことを心苦しく思っています。

---

## ノーステア一周忌追悼特集

---

ノーステア（北暁）号が昨年3月26日に13年の生涯を閉じてから、およそ一年が過ぎました。昨年度の部報では、発行直前の出来事ということもあり、死亡報告の掲載のみとなっていました。この度、一周忌に際してノーステアの調教を担当されてきた井畔兄、山川兄、宮川兄と、ノーステアの最期に立ち会ったサブから、ノーステアとの思い出を寄せていただきましたのでここに掲載いたします。

◆ノーステア（北暁）号

父 ゼンノエルブルース

母 ムガール

サラ セン 栗毛

2008年3月5日生

北海道勇払郡安平町産

2015年12月4日入厩



井畔貴之（平成 30 年度卒部）

彼が北大に来たのは、自分が 1 年目のころの秋でした。当初は調教を江口兄に担当していただき、自分が日ごろの管理を任せられました。当初から蹴るは咬むはで大変でした。多くの方が被害にあわれたと記憶しております。この場を借りて、彼に代わりお詫び申し上げます。どうもすいませんでした。自分も例外ではなく、今でも腕や背中など体中に彼の咬み痕が残っています。でもここで一つ自慢させてください。ある時期（おそらく 2 年目後半）から、自分は彼の攻撃を受けなくなりました。それだけでもとてもかわいいやつでした。どうしても凶暴なイメージが先行してしまう、損な彼でしたが、実は甘えんぼな一面もあり、怖がりな一面もありとても豊かな性格でした。一つ一つのエピソードをここで紹介すると長くなってしまいますので割愛させてください。知りたい方には直接お話しします。

騎乗してみるととても素直な彼は、下級生の練習に使えるだけでなく、飛越できる障害の高さも着々とあがり、野外障害も臆することなく飛んでくれて、自分が 3 年目のときに北日本総合に出場することができました。全日本の権利をとることはできませんでしたが、自分の後に山川、宮川と権利を獲得してくれて、とてもうれしかったです。一番の思い出は、やはり北日に初めて出場したときです。障害審査を無事終わったときには、思わず馬上で号泣してしまいました。

また、彼は慢性的間欠的な跛行を繰り返していました。獣医学部生にもかかわらず、彼の管理を任せられていたにもかかわらず、主将にもかかわらず、その原因が特定できなかったことがすごく悔しかったです。自分が馬の獣医を仕事として選んだのは、その悔しさがきっかけです。そんな意味では彼は、自分の人生の方向性を大きく決めてくれた子でした。

最後に、ノーステアありがとう。これからはゆっくり過ごしてください。



山川智大（令和元年度卒部）

ノーステアは臆病さ勇敢さを併せ持つ馬でした。

私が入部した当時からノーステアは狂暴で危険な馬として部内で認識されていて、1年生は近づかないように上級生から厳しく注意されていました。その狂暴さは臆病な性格ゆえであり、怖がらせないように他の馬以上に気を配れと先輩に言われたのを覚えています。周りのことに過剰に反応する臆病な馬というのが私の印象で、それはノーステアに乗るようになった3年生の頃まで変わりませんでした。

しかし、共に競技に臨むパートナーとしてノーステアと接するようになってから印象はがらりと変わりました。不器用ながらも障害、馬場、野外の全ての素質があり、乗り手の指示に集中して耳を傾けてくれる馬、総合馬として彼ほど頼もしい馬はいませんでした。特に優れていたのは障害に対する勇敢さです。その臆病な性格からよく物見をしてひるむことはありましたが、最後には人の指示に耳を傾け飛んでくれる。アリーナでも野外でも、その性格を考えると驚くほど反抗の少ない馬でした。あの臆病さで全日本学生の野外まで回れるようになったのは、彼が他のどんな馬より勇気を出して競技に臨んでいたからだと思います。

最後の全日本学生で印象的だった出来事があります。ノーステアと共に総合の競技に出場した私は、野外コースの中盤、大きな障害を飛越し水に飛び込んだ時にバランスを崩して馬から落ちかけました。拒止せずに完走しようと必死だった私は落ちかけたまま次の障害に向かっていきましたが、徐々にノーステアは常歩になり、障害の前でゆっくりと止まりこちらに顔を向けました。まるで「このまま飛んだらお前落ちるだろ？」と言われたように感じたことを今でも鮮明に覚えています。野外コース中盤のスピードに乗っている状況での拒止の仕方としては不自然なものでしたが、この拒止により落ち着いて体勢を立て直し、結果的に残りの障害をミスなく完走することができました。人にとっても馬にとっても初めての全日本学生でしたが、馬の方が冷静で馬に助けられた競技会でした。

思い出を振り返ると、改めてノーステアが去ってしまったことを寂しく思います。もっと総合馬術の舞台で活躍し続けて欲しかった。またあの力強く走る姿を見たかった。噛みつかれたって蹴られたっていいから元気な姿を見せてほしかった。そんな風に思っているのはたぶん私だけじゃなく、彼に関わってきた多くの先輩方や後輩達も同じだと思います。多くの人と関わり、多くの人記憶に深く刻まれた馬、そんな偉大な馬の人生の1ページを共に過ごせたことを誇りに思います。

今はきっと何にも怯えることなく安らかに眠っているでしょうか。もし起きることがあったら馬場の側からあの勇敢さを部員や馬たちに分けてあげてください。

ありがとうノーステア。冥福を祈ります。



宮川寛希（令和2年度卒部）

私たちが、ノーステアを失ってもうすぐ一年になるのですね。今でも、彼に似た馬を見る度に、一緒に駆け回った農場や最後の年の春馬場で全然動いてくれなかったこと、そしてノーザンで何度も跳ねられ、落ちたこと、最後の全日のことが昨日のことにように思い出されます。ノーステアは、私が入部したころはまだ馬術部に在籍して1年ちょっとの新馬扱いの馬でした。噛みつくし、蹴るし、危険で下級生は近づいてはいけないような存在でした。井畔兄が北日デビューの年で完走したり、翌年福島で悔し涙を飲んだこと、山川兄の北日全日完走、自分が担当につくまでは、カッコいい先輩とカッコいいノーステアの憧れのコンビという印象で、やっぱり遠い存在でした。

私が、ノーステアと深く関わっていたのは、大学生活最後の1年です。学生馬術最後の1年を誰とどう過ごすか考えた時、初めに思い浮かんだのはノーステアではありませんでした。自分は、カッコいい先輩と彼との名コンビになれる自信がなかったです。ただども、前任の山川兄や周りのOBの方々からはノーステアに乗ることを進めてくださり、そして他大のドンパの気持ちの面での支えがあって、暴れん坊な彼に携わらせていただいていた。当時私と2年生3人(駒田、植田、虎ちゃん)で担当する中で、いかにノーステアに心を開いてもらえるか、緊張しやすい彼がいかにリラックスして動けるか、ずっと考えながら過ごしていました。その中で、感じた特徴を以下に記しておきます。

・臆病だけど、勇敢。

ノーステアは、とても人間味のある馬でした。人を噛んでくるのは、怒って攻撃しようとしているというよりも、臆病だから、これ以上近くにいたら怖いから、来ないで！の意味が大きいように感じていました。臆病だから、初めての障害、久しぶりの場所に対しては、とても緊張しながらも人の扶助に反応して勇敢に立ち向かってくれる馬でした。自分のときは、馬場の外の農場でもたくさん練習したのですが、ドキドキしながらもいつも頑張ってくれました。普通の馬なら、イヤイヤしたり反抗しそうな場面でも、体勢を崩しても頑張っただけで応えようとしてくれる様子がとても伝わってくる馬でした。こんなに、僕は怖いけど頑張るよ、と感じさせてくれる馬はノーステア以外いませんでした。

・顔を洗われるのは好き。

手入れの時も噛みつこうとしたり、蹴ろうとしたりしてきます。特にタオルで拭かれるのはとても嫌がっていました。ただども、顔を洗われるのは、とても好きでホースで水をかけられることも、他の馬は結構嫌がりますがノーステアはむしろ進んでかけられに来ていました。タオルで顔を拭くときも、むしろ自分からゴシゴシされに来ていて、これは可愛かったです。

・放牧が嫌い。

馬場に放牧した瞬間に、他の馬に譲らず、入口前を陣取ります。他の馬は、放牧時結構走ったりもしていましたが、彼はじーっと入り口付近の草を食み、動きません。そして、入口空いた瞬間に勢いよく出ていこうとします。練習での運動時も、開始時は全然動かず、人間

だったら、かなりのインドア派だったのかな、と感じています。

・結構なドジっ子

何で、そんなところ擦るのー???!ということが多かったです。多頭放牧で、他の馬の飼いを奪いに行き結局奪えず、自分の飼いを食べられていることがありました。全日前のノーザンでの最後の野外の直前に両前脚、曳馬でコケって擦った時は本当に焦りました。

今思うとどちらが似たのか、ノーステアメンバーもドジっ子多かった気がします。彼も含め、みんな素直で真面目で、いい思い出です。



元気がない時のノーステア(10月ノーザンにて)



全日の厩舎でのノーステア(11月山梨にて)

ノーステアとの思い出で一番記憶に残っていること

ノーステアとの一番の思い出は、やはり最後の全日です。結果として、私は最後の1年間ノーステアと成し遂げたかったことをできました。この1年間ノーステアと真剣に向き合い、何度も泣いたし、悔しいこともありました。自分が総合を完走し、植田がMDを完走する自信はありました。ただ、1頭の馬で2人が全日に出ることは、ずっと北大ではなかったことで、周りの人たちを納得させる結果も得られていなかったために、ノーステアに影響するんじゃないかと思うくらい、自分自身が不安でとても緊張していました。そんな中、彼は初めての山梨でもいつも通りでした。他馬と遭遇したらちゃんと暴れ、テンション高く、総合の馬場では失権ぎりぎりに跳ねまくっていました。ノーザンの準備馬場では、2回くらい彼から落ちていたので、クロカン大丈夫かな?という気持ちでした。ただ、ク

ロカン本番のノーステアは、自分の仕事が分かっているように、とても落ち着いていて1つ1つ着実に飛んでくれました。ノーステアは、飛び方がちょっと独特で、近くから大きな体を使って真上に飛ぶような馬でした。あの大きな背中、他の馬では味わうことのできない感触でした。

今、こうしてノーステアのことを振り返ってみると、彼と関わった時間は大学時代という短いものでしたが、私の心の中では生涯生き続け、絶対に忘れることのできない思い出です。どうか皆様の心の中でも、彼との思い出、彼の生きていた証が残りますように。





駒田智美（4年目）

チーフとして、ノーステアの死亡報告を書いてから約一年が経ちました。当時はとにかく悲しくて、救ってやれなかった自分が悔しくて、写真や動画を見返しては涙していましたが、一年という時間をかけて、ようやく思い出を振り返ることができるようになってきたように感じます。

入部して初めてサブについたのがノーステアでした。第一印象は「すごい凶暴な馬」でした。他の馬と違って、常に先輩が近くにいないとひき馬はおろかブラシがけすらできないような。しかし、接しているうちに、彼は暴力的な性格なのではなく臆病だから攻撃的なんだということが段々分かってきました。何が怖くて、どう接したら怖くないのか、舐められているときとどうやって見分けるのか、先輩に教わったことをただ実践するのではなく馬をよく観察して接するようになったのはノーステアのおかげです。ノーステアに鍛えてもらったおかげで、どんな馬でも動じずに扱えるようになりました。

とはいえ、ノーステアに心を開いてもらうまでには非常に長い時間がかかりました。臆病で、そして頑固な性格故、1年生のうちには馬房に入れてもらうことすらできず、無口をつけるだけで10分以上かかる日もありました。特に冬季の荒れ具合は凄まじく、無口を持って馬房の中を何周も回ったり空き馬房に入りたがらないノーステアと我慢比べしたり、両肢で飛び蹴りしてくるノーステアを宥め賺して手入れしたりと苦労話に事欠きません。運動不足でイライラしていた上に、雪が降って目に映る景色がガラッと変わったことが怖かったのでしょう。今となってはそんなところも憎めない可愛さです。

ノーステアのかわいいポイントの一つに、食いしん坊があります。とにかく食べるのが大好きで、草のためならプレハブ小屋にだってブルーシートにだって近づけます。馬場の周りの斜面も段差も気にせずモリモリ食べます。食べるのに夢中になりすぎたあまり、いがいがの実が前髪に絡まってしまい、前髪ごと切られてしまったこともありました。前髪がなくなったノーステアはちょっぴり間抜けな顔をしていて可笑しかったのを覚えています。

競技中のノーステアも大好きでした。私は上手くノーステアを動かすことはできませんでしたが、先輩方を乗せて障害物に向かうとき、彼は人の指示に忠実に従ってとても果敢に挑んでいました。普段の様子を見ていれば、高い障害物も見ただけで怖がる野郎も彼にとって恐怖の対象でしかないことは明らかなのに、それでも怯まず勇ましく飛越する姿にどれだけ感動を覚えたでしょう。

改めて文章にしてみると、後から後から思い出が溢れてきてうまく纏まりそうにありません。私が今日まで部活を続けられているのは間違いなくノーステアのおかげです。ノーステアに教わったことはまだ生きています。思い出も心の支えになっています。本当に本当に出会えてよかった。一緒にいさせてくれてありがとう。今あなたが安らかに眠れていることを心から願っています。



イガイガまみれのノーステア



鏡のなかの自分に人参を自慢するノーステア

植田咲喜（4年目）

私は1年目の夏ごろからノーステアにサブとして付かせていただき、山川兄、宮川兄と共に大活躍する姿を近くで見させてもらいました。宮川兄の引退後は、短い間でしたが担当者として関わることも出来、私がノーステアのレベルに追いつけずうまくいかないことばかりでしたが、本当にたくさんのことを教えてくれました。

私がノーステアと過ごした日々の中で強く記憶に残っている日は2日あります。

1つは2020年11月3日。ノーステアと全日本学生のMD競技に出していただいた日です。ノーステアの邪魔をしないように、機嫌を損ねないようにとひたすらタテガミにしがみついていた私に最高の景色を見せてくれました。

2つ目は同じ年の7月10日です。特に何もない平日ですが、落鉄していたため運動がお休みでした。そのせいか、いつも暴君としておなじみのノーステアがとってもおっとりして、前髪をちょんまげにされて写真を撮られてもウトウトしていたのを覚えています。ノーステアの前髪を触ったのは後にも先にもあの日だけかもしれません。

ノーステアとの思い出も、ノーステアに教わったことも、数えたらきりがありませんが、それら一つ一つを今乗せてもらっている馬たちに、また、主将として部のために活かしていきたいと思います。

ノーステア、お墓にニンジンいっぱい供えるから食べてね。大好きだよ、ありがとう。



#### 早貸虎之介（4年目）

「一人ずつ担当したい馬の名前を言って」と言われ、ほかの馬の名が次々あがる中、一向に指名されない彼を哀れんだ一年目の夏からノーステアに関わり始めました。僕がノーステアを希望したのは人気がなく、ただかわいそうだと思っただけではなく、競走馬時代に名前を聞いたことがあったからです。北大に聞き覚えのある名前の馬がいると興奮したことを覚えています。競走成績も一番優秀なノーステアがなぜ他の部員から避けられているのか当時はよくわからず、あれほど凶暴とは知りませんでした。上級生が少なかったので四年生が引退してからは自分含め一年生三人でノーステアの手入れをせざるを得ませんでした。雪が積もってからは凶暴さが増し、無口をつけることすら一苦労でした。馬房の扉を開けば嘯みつこうとし、中に入ろうとすればお尻を向けて蹴ろうとしてくるノーステアの対処法ができるまでは無口をつけるのに三十分以上かかることもしょっちゅうでした。残りのサブ二人がそろって札幌にいないことも多々あったので、そんな日が続いたときは「また手入れか。今日は何分で無口をつけられるだろう」と部室に向かうまでの足取りが非常に重かったのも思い出です。仮に今ほど上級生がいればノーステアとの接し方のコツを心得るまでは一年生だけで手入れをすることもなかっただろうと思います。あの頃の自分たちをほめてやりたいです。一方で乗る面においては非常にいい馬でした。一時期最上級生である宮川さんでしか動かさないこともありましたが、大柄で安定感のある乗り心地がとても好きでした。多少上がった今の実力で、またノーステアに乗りたかったなと強く思います。亡くなる前日でも嘯みついてきたけれど、貴重な経験をさせてくれたノーステアにはとても感謝しています。



阿部悠和（2年目）

誕生日が僕と同じでどこか性格が少し似ている部分があり、とても親近感が湧いておりました。馬の扱い方のほとんどはノーステアと当時のチーフであった駒田先輩から学びました。ノーステアとは何故かとても波長が合い、ずっと付き合っていくような感じがしておりました。額の部分をブラッシングしてあげると気持ち良さそうに顔をこちらに近づけてくる様子がとても好きでした。今までたくさんの人を感動させてきてくれてありがとう。これからはゆっくりと休んでね。



# 放牧用小パドック設置の経緯、完成報告

阿部 悠和 小谷 慧

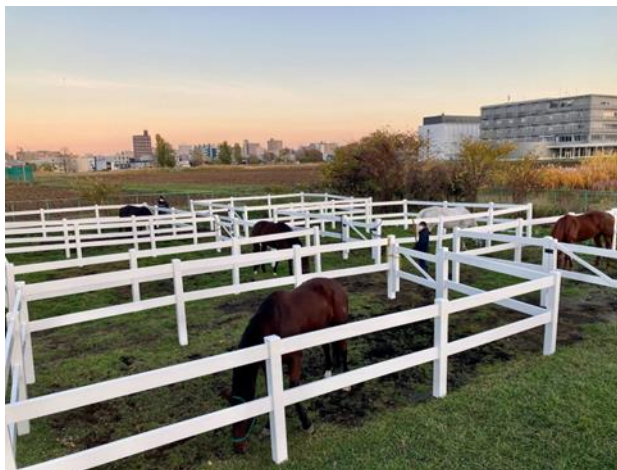
今年に入り、ノーステアの右前肢基節骨骨折に始まりダノンアンチョの裂蹄、カノンコード、アップヒルティガー、ファンキーボーイなどと馬場の土の固さなどが原因で跛行する馬が続いていた。走り回らず、落ち着いた環境で放牧ができる大きさの放牧地がほしいとの多くの要望があり、今回放牧用小パドックを設置する運びとなった。

作業は今年4月から田中沙季前主将を中心として始動し、その後の代替わりに伴い6月ごろから我々が引き継いだ。株式会社アシストの川上様とも何度も連絡を取り合い、相談しながら安全な放牧地の設計を試行錯誤し、また馬術部全体に繰り返し説明を行って放牧地の囲いの材質や大きさ、個数などを下記図表のように決定した。【表1】

その他に土や種子に関しては株式会社北海道造園コンサルタントの高原様、建材の運搬に関しては関東馬事学院様にご協力いただいた。そして工事に関する道具も知識も不十分なか、作業を手伝ってくれた部員のお陰でなんとか雪が降る前に竣工することができた。

【右下完成図】

材質	ポリ塩化ビニル
面積(大)	7.2×6.6[m <sup>2</sup> ]
個数(大)	4
面積(小)	7.2×4.2[m <sup>2</sup> ]
個数(小)	2
総面積	250.56[m <sup>2</sup> ]
費用	1,576,101[円]



左：【表1】放牧地に関するデータ、右：完成図

<今回ご協力いただいた各種業者様>

株式会社アシスト 川上 拓生様

株式会社北海道造園コンサルタント 高原 匡史様

東関東馬事学院様

建設に携わってくださった皆様、誠にありがとうございました。

---

## 北海道大学水産学部馬術部

---

北藤 翼

こんにちは。北水馬術部の北藤翼です。今回は、北水馬術部の2021年度の活動を北大馬術部の部報に寄稿させていただきました。

私は3年生になり、函館キャンパスに移行してから、馬術部に所属しました。北水馬術部は函館競馬場で、少年団の子供たちや一般の方々と共に函館競馬場の職員の先生に指導していただきながら活動しています。入部した直後は、恐る恐る馬房掃除や馬装の作業をしたり、振り落とされないように手綱をしっかり握ってしまったりとしていましたが、周りの先輩や少年団、職員の方々が丁寧に教えてくださったおかげで、ようやく駆足ができるようになりました。

北水馬術部の大きな活動として、6月から7月に函館競馬場で開催された函館競馬にアルバイトスタッフとして参加させていただきました。誘導馬のお世話をしながらその雄姿とレースを間近で見えていましたが、普段の練習で乗っている馬が誘導馬として競走馬の先頭を歩く姿はととても凛々しく、この馬達に乗れることを誇らしく感じるとともに、より一層練習に励もうと思いました。

函館競馬が有観客で開催された一方で、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、函館でも部活動は厳しく制限され、思うように活動ができないといった状況が続きました。さらに追い打ちをかけるように、北海道三場馬術大会が中止になりました。そのような状況下でも北水馬術部は感染対策に留意しながら楽しく活動を続け、職員の方の協力のもと「ジムカーナ競技」が開催されるなど、皆で協力し工夫しながら活動できました。

2021年度も新型コロナウイルスの流行一色になるかと思われましたが、「ウマ娘」のアニメやゲームがその勢いを凌駕するほど人気となるなど、馬術部にとっては追い風となる出来事もありました。部員の中にも、お気に入りのウマ娘を育成しているトレーナーが在籍しています。2022年度になるとすぐに新入部員勧誘という部活動のビッグイベントがありますが、「ウマ娘」効果にあやかりながら、部員を呼び込んでいきたい所存です。

それでは、心身にはくれぐれも気を付けてお互いに頑張りましょう。

---

## 卒部にあたって

---

### ◆田中 沙季◆

私はとても運が良く恵まれているな、と馬術部に入ってから何度も感じました。

1年生の秋には部員が8人まで減り、そのお陰(?)で毎日たくさん馬に乗って、先輩方にとっても熱心に指導していただき、下級生ながら大会にも出させてもらい、本当に多くの経験を積むことができました。大学から馬術を始めた私がここまで乗れるようになったのは、確実にこのときの経験と先輩方のお陰です。愛のあるスパルタ指導をしてくださった羽二生さん、理論的な乗り方を面白く教えてくれた山川さん、しんどいときに癒してくれた須藤さん。皆さんの後輩になれてよかったです。

2年生の夏ごろからは担当馬の調教を本格的にやらせてもらい、経験豊富なアヒルにたくさん教わりながら、乗り方を試行錯誤する毎日でした。初めてのクロスカントリー、初めてのMDをアヒルと一緒に走らせて楽しかったです。選手権、北日、七大戦もすごく思い出に残っています。

3年生の頃からは部員が増え、たった1人の4年生として主将を務めた宮川さんは大変だったはずですが、いつも優しく私の意見を尊重しながら指導してくれて、私はのびのびと練習に集中することができました。馬はアヒルとアンチョの可愛い芦毛コンビを担当しました。スーパーホースの2頭持ちで、結果を出さなければというプレッシャーも大きかったです。彼らはとても頼もしく、私を初めての全日に連れて行ってくれました。

4年生では大会に出ることはできなかったのですが、その分後輩と馬の育成に力を注ぎ、たくさんの成長を見ることができました。悩み、辛いことを乗り越えながら努力している後輩たちの姿には私も励まされていました。大勢の後輩ができ、みんなが私についてきてくれて、主将としてとても嬉しかったです。

馬術部での3年半はあっという間でしたが、これからもずっと私の中で大きく、強く残り、人生を支えてくれる経験になると思います。馬術部に入って本当に本当に良かったです。私のパートナーであり先生であった馬たち、今まで指導してくれた先輩方、お世話になった方々、かわいい後輩たち、今までありがとうございました。大好きです！



## ◆森 翠◆

馬術部を引退して数ヶ月が経ち、毎日馬に会えない寂しさも和らいできました。しかし美味しそうな青草を目にするたびに馬たちは元気かな、部員達は頑張っているかな、といつも思っています。

馬術部で過ごした4年間、本当に色々なことがありました。全てが新鮮でワクワクしていた入部初期。減りゆく部員と馬に乗ることの恐怖心から部活を楽しめなくなっていた1年後期。部員数の回復で賑やかさを取り戻し、また運営や会計の仕事の大切さを実感し始めた2年目。コロナに振り回され始め、しかし今までになかった余裕が生まれたことで馬術、馬術部について色々考えることのできた3年目。かつてない規模の新入生と新しい馬達を迎えた4年目。当たり前といえば当たり前ですが、馬術部は常に変化し続け、様々な側面を見せてくれました。大変だったことも多々ありましたが、沢山の貴重な経験ができたことに感謝しています。

私は優柔不断で強く主張することが苦手である性格ゆえに、馬に対しても堂々と自信を持って接することがなかなかできず、騎乗時や手入れにおいてうまくいかないことが多くありました。なんだか下手の横好きのように感じて馬に迷惑なんじゃないかとか、恐怖心や忙しさも相俟ってこのまま静かに退部してしまおうかと思ったこともありました。1年生の時のサブはシュガーとあんちょでしたが、この二頭には手入れで何度振り回されたことでしょう。しかしある時、自分の焦りや緊張が馬に伝わってしまっているのではと思い、手入れの時間だけはどんなに忙しくても時間が無限にあるかのように我慢強く丁寧に馬に接することにしました。今考えると生き物を扱うのだからそんな当たり前ではないかと思いますが、当時は忙しさに紛れてその当たり前気づく余裕がなかったのです。こう決めてから徐々に、馬がわずかではありますが素直に耳を傾けてくれるようになり、私もスムーズに扱えることが増えてきたように感じます。そしてゆとりができるとより一層、馬の個性を感じることができました。馬は想像以上に魅力的な生き物で、手入れや青草を食べながらゆったりしている時、そんな馬と触れ合える時間が私はとても楽しく幸せでした。悲しいことに、馬上ではそんな余裕があったことはほとんどありませんでしたが。

最後に、同期の2人にはもちろん、先輩にも後輩にもたくさんお世話になりました。振り返ると、自分をもっとこんなだったら、あんなだったら、馬術部はより良く進んで行けたかもしれないなと思ったことは多々ありますが、会計の仕事などできる範囲の役割は果たせたのかなと思っています。4年間温かく接してくれた部員たち、いつも癒しとねずみを提供してくれた猫たち、そしてこんな私を背中に乗せてくれた全ての馬たちに感謝しています。今後も馬術部の活躍を応援しています。

## ◆伴 日向子◆

今思い返すと、部員が8人だった時代もあれば、新型コロナウイルスの感染拡大により十分な練習を得られなかった時期もあり、その一方でたくさんの方の後輩に恵まれるという、なんとも予想のつかない日々でした。これまで部活動を続けてこれたのは、偏に常々導いてくださった先輩方や、元気に練習に励む後輩たち、なにより同期の存在が大きいです。本当にありがとうございました。

私は1年生の練習中に落馬したことがきっかけで馬に乗ることがトラウマとなり、それ以降は一切騎乗しませんでした。後輩たちは一度も見たことがないでしょう。技術もまだ身につけていない中でそのような決断をし、それでも残ったのは、馬たちと触れ合いたかったこと、また、部員が少なかったことが起因しています。正直良い機会があれば辞めようと常々思っていました。運悪く(運良く、でしょうか)続けることになり、今こうして卒部に寄せた思いを書いています、私自身が続けたことに一番驚いています。

1年生で乗ることをやめた、ということから分かるかもしれませんが、私自身指導できるほどの実力、技術は全くと言っていいほどありません。学年が上がり後輩の指導をする立場になり、正直こんな私が、と思ったこともありましたが、先輩からのアドバイスもありそれなりにこなしてました。私の指導を受けたであろう後輩たちに悪い影響が出ていないか、それだけは心配です。信頼しすぎないでください。

こんな私がこの部活で学んだこと、なんて大層なことを述べるのはむしろ痒いので、後輩たちへの想いを簡単に記します。

3年生へ。4月の半澤杯からこき使われ、この部活が嫌いになってもおかしくないにも関わらず、たくさん残ってくれました。それは先輩の存在が、というよりはあなたたちの仲が良く、お互い切磋琢磨しあう素敵な関係であるからこそだと思います。これほど最上級生で人数が残っていることも珍しいでしょう。最上級生となった今後は、部の顔、頭としてそれぞれの思いがあるからこそぶつかることもあるとは思いますが、互いの意見を尊重し、より良い部活動運営に励んでください。

2年生へ。新型コロナウイルスの発生により大きな影響を受け、入部も7月頃となりました。オンラインの新歓ということで人数が少なくなるのでは、と危惧したこともありましたが、予想以上にたくさんの方が入部してくれ嬉しかったです。この学年も入部当初に大会へ連れて行きこき使った気がします。すみませんでした。人数が増え、加えてコロナの関係で練習時間に制約がある中、それぞれが己の技術向上のため色々なところへ足を延ばし練習する姿勢はとてもしっかりしています。1年生と3年生の橋渡し、加えて自分の練習とやるべきことは数多くあり大変だとは思いますが、互いに支えあい頑張ってください。

1年生へ。ほんの半年の関わり、加えて半分くらいは顔を合わせていない気もしますが…。今は貪欲に知識、技術を習得する時間です。馬術という特殊なスポーツでは、色々な人が色々な考えで指導をします。時に正反対のことが示され、困惑することがあるかも

しれません。まずは受け入れ、実践してみてください。馬との相性、自分に合うか、様々な要素が絡む馬術において、正解は1つではありません。自分に合ったスタイル確立のため、色々なことに挑戦してみてください。これからの活躍を楽しみにしています。

最後になりますが、長い歴史を持つ北海道大学馬術部が現在も活動を続けていられるのは、部員の存在はもちろんですが、指導部の方々に加え、OB、OGの皆様のご尽力によるものが大きいです。このような時世で直接は難しいので、この場で御礼申し上げます。今、馬が増え、人が増え、馬術部は過渡期を迎えております。たくさんの前途有望な後輩たちが活躍の場を求め、日々練習しています。これからも彼らの活躍への応援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

色々ありましたがこの部活を続けてよかったです。今までありがとうございました。

## ◆青木 貴哉◆

この春函館キャンパスへ移行するので同期の皆さんよりも少し早く卒部することになりました。札幌では2年間しか活動できないとわかっていたつもりでしたが、いざ卒部が近づいてみると寂しいものがあります。気の置けない同期や後輩そして熱心に指導していただいた先輩方との日々の練習は僕にとってとても楽しくてやりがいに満ちたものでした。素敵な2年間をありがとうございました。

サブはしゅがにつかせてもらいました。わがままな彼には散々振り回されましたが、真っ先に思い出される記憶は2人でゆったり歩いていた時のものです。こうやって記憶は美化されるのですね。しゅがサブには優秀な1年生の奥谷と石川がついてくれているので安心して函館へ行けます。ありがとう。

札幌に来る機会があったらぜひ部屋によらせてください。今まで本当にありがとうございました。

## ◆宮下 祥馬◆

卒部に当たってということですが、まだ入部して一年と少しの僕には正直もうすぐ卒部するという実感がありません。僕が入部したのは一年目の夏休み明けのことでした。毎日練習のために日が出る前に起き、手入れや当番、バイトなどでも部活に時間を割かなければならないと知ったときには、とんでもない部活に入ってしまったなと思いました(笑)。それでも、これまで部活を続けてこられたのは、先輩方や同期のみんなのおかげだと思っています。寂しがり屋の僕に、練習時間外にも話しかけてくれたり、ご飯や遊びに誘ってくれたりしたのがとてもうれしかったです。本当にありがとうございました。

これまで、僕はベイスンのサブとして手入れに携わせていただき、大会もベイスンで出場させていただきました。ベイスンのようなスーパーホースに乗り、手入れをすることができたのはとても恵まれていたことだと思っています。

函館に行って先輩方、同期、後輩のみんなと離れてしまうことはものすごく寂しいです。ですが、函館に行っても馬術部を続けるつもりですし、札幌の方にも何度もお邪魔しようと思っています。またお会いすることになると思いますので、その時はまた仲良くしてくれると嬉しいです。繰り返しになりますが、これまでありがとうございました！

## 部員紹介

### ●三年目

☆植田咲喜

学部：獣医 好きな馬：ベイスン



ベイスンを愛する主将。大阪にある実家はお米を作っているらしい。まさに「植田」家。

☆井上芽依

学部：医 好きな馬：シュンソク



少年漫画の主人公にしたい先輩ランキング 1 位。馬場に出ると偏差値が 3 まで下がるのが唯一の問題。

☆石田隆悟

学部：理 好きな馬：ノガロ



静岡が生んだ自称器用貧乏。スノーボード、マジック、狩猟(?)といった具合になんでもできちゃう。かいけつゾロリとヤバTが大好き。

☆北出右京

学部：理 好きな馬：カノン



大抵のことは笑ってくれる寛大な心を持った頼れる先輩を絵に描いたような人。声も身長も大きい。姿が見えなくても笑い声でいることが分かる。

☆駒田智美

学部：獣医 好きな馬：シュガー



馬術部を"運営"する女傑。動物界ではゾウが好きで、人間界ではちっちゃくてかわいい女の子が好きらしい。

☆関貴生

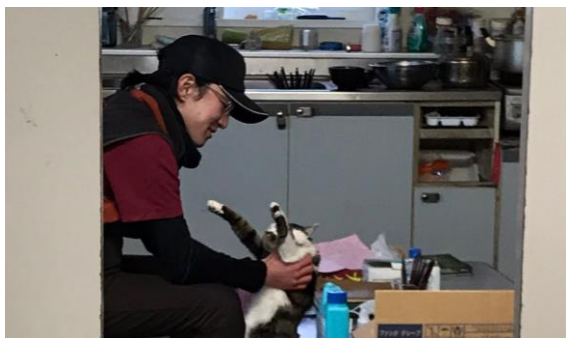
学部：教育 好きな馬：あひる



馬には乗らず、指導に特化している。指笛や口笛など音が鳴る芸がとくいで、最近では1年の女子とネイルの話で盛り上がる。

☆坂本信仁

学部：理 好きな馬：ドラゴン



誰もが認めるドラゴンライダーであり飼料担当。名前を初見で読める人は稀。

☆曾和祐稀

学部：農 好きな馬：あんちょ



アンチョ T シャツを作るほどの担当馬オタク。あとイケメン。黒髪希望。

☆武井陸

学部：理 好きな馬：シュンソク



様々なところに気を配り、元野球部とは思えないほどスマートに行動するカッコいい先輩。学生証を失くすことに定評あり

☆沼田栄花

学部：獣医 好きな馬：ドラゴン



ふんわり不思議な雰囲気のためドラちゃんlover。怒らせたなら手に持っている<何か>で眠らせられるらしい。

☆早貸虎之助

学部：理 好きな馬：ブルー



プロ馬券師。暮れの有馬記念でも大幅プラス収支を手にしていた。これまでは主にジーパンで騎乗していたが、3年目になってようやくキュロットの良さに気づいたらしく、キュロットを履き始めている。

☆藤村良汰

学部：農 好きな馬：ブルー



働き者すぎるのにその自覚がないただただ良い人。はやく手料理を作ってもらいたい。

☆安田理紗

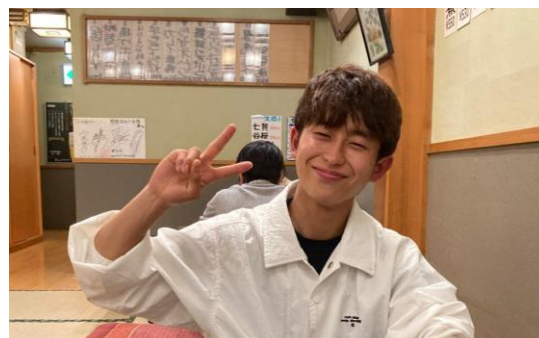
学部：獣医 好きな馬：ディアード



信じられないくらい高そうな上着で馬場にくる大金持ち。大きい馬が好きらしい。

☆若林壮真

学部：文 好きな馬：シュガー



ミステリアスな雰囲気を醸し出す馬術部のスピリチュアル担当。軽い身のこなしでバク転を披露し、近くにいた馬を驚かせていた。

☆山中竜馬

学部：理 好きな馬：クライム



馬術部のおしゃれ番長。普段はクールだが可愛さを持ち合わせており、クライムに乗っている時はチャーミングな笑顔を見せる。



●二年目

☆水木優之介

学部：獣医 好きな馬：クライム



行動力お化け。昨日高知にいたのに今日はフロンテアにいた。どんな話も聞いてくれる優しき副将

☆阿部悠和

学部：理 好きな馬：ディアード



使う言葉は汚いが心優しいお兄さん  
部活のアイドルを落とした幸せ物でもある。

☆青木貴哉

学部：水産 好きな馬：シュガー



香川と愛媛のハーフ。独自の語彙を多々生み出す感情豊かな人。函館に行ってしまうのはかなりシブイ。

☆井嶋南里

学部：農 好きな馬：あひる



おっとり癒し系。不思議ちゃんな面もあるが意外と大胆でかっこいい。寮生かつ理転したすごい人。

☆内田悠人

学部：理 好きな馬：あひる



馬術部には珍しい垢抜けたイケメンで実は島根出身。笑顔が優しく後輩にもとってもフレンドリー！

☆江口柚希

学部：理 好きな馬：カノン



カノンのチーフとして馬術部の一翼を担う、とっても頼りになる先輩。学生会館のコンロの火力が弱すぎてもやしを1晩炒めた。焦がしたとも。部屋には備え付けの家具しか置いていないミニマリスト。かわいい。

☆戎真由香

学部：農 好きな馬：ベイスン



馬術部の太陽。部活後の対面授業のため靴まで履き替える完璧美少女。部活へ向かう徒歩のスピードが尋常じゃなくて怖い

☆小久保奈於

学部：工 好きな馬：シュガー



シュガー愛に溢れる頼れる姉さん。シュガーに対する飴と鞭の連続は見ている人を軽く引かせている。仕事を代わるのが難しい先輩ランキング1位。

☆小谷慧

学部：工 好きな馬：ブルー



めちゃくちゃ器用人で頼んだら大抵のものは作ってくれる。某乗馬クラブの人に気に入られて年末年始をそこで過ごした。もはや孫。

☆高橋知里

学部：医 好きな馬：あんちょ



いつも優しい笑顔の馬術部の天使。完夫所の語彙の中で一番悪い言葉は『お前』。

☆筒井千香子

学部：看護栄養(天使大) 好きな馬：ノガロ



ノガロをこよなく愛するイカつい関西人。笑いに厳しい。

☆林朋花

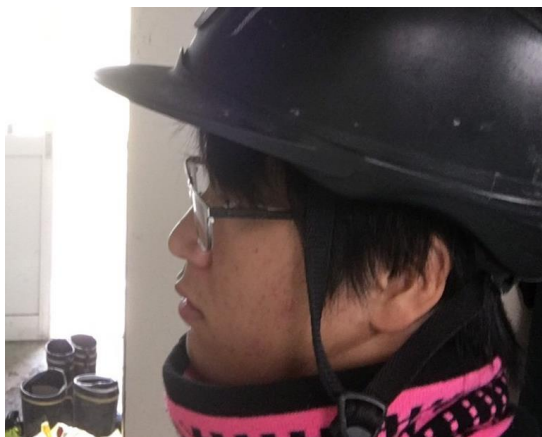
学部：経済 好きな馬：ドラゴン



馬術部ではレアな北陸出身。どれほどドラゴンに噛まれてもめげないメンタルの持ち主。運転はあまりさせたくない。

☆堀川壮流

学部：獣医 好きな馬：クライム



馬術部で1番体育会系の関西人。最近ベットの  
落ちて足を「ぐねった」らしい

☆渡辺晴菜

学部：獣医 好きな馬：あんちょ



普段はあまり話さないが、打ち解けると口が止ま  
らないタイプ。くまが好き。

☆宮下祥馬

学部：水産 好きな馬：ベイスン



おっとりとした口調でぶっ飛んだことを言い出す  
ギャップが萌える美少女 AI。

☆鮫ノ口航太

学部：総合理系 好きな馬：シュンソク



えんじ色の盛岡第一アイテムをいつも身に纏っている。いじり過ぎには要注意。

☆小野塚絢美

学部：獣医 好きな馬：あんちょ



自宅でも鞍に乗る真面目系馬術部員。  
オフ日に会うと別人。

☆石川勇斗

学部：水産 好きな馬：しゅがー



プラモ、映画から漫画までなんでもござれの多趣味人間

朝は目つきが悪いので要注意

☆鎌倉壮太郎

学部：総合理系 好きな馬：クライム



面白い人ではあるこれは間違いない(某幼馴染より)

☆堀悠太郎

学部：医(札幌医科大) 好きな馬：ノガロ



札幌医科大学医学科からの高身長刺客。めちゃくちゃいい匂いする。男子校出身とは思えない陽キャ。

☆田中侑

学部：工 好きな馬：くらいむ



馬術部のキモ担当。これだけだといじめのようだが、キモ担当であることによってキモさが薄まっているのでこの役割は救いでもあるらしい。

☆安藏舞子

学部：法 好きな馬：どらごん



自身の一挙一動をツイートする一流 Twitterer。後のドラゴンライダーになるため外部で鞍数を増やしている努力家。藤野とバチバチ。寝坊常習犯。

☆長安杏佳

学部：総合理系 好きな馬：あひる



あひるを愛するコミュ力強部員。外部にも積極的に乗りに行っており、メキメキ腕を上げている。持ち前のコミュ力によって、某乗馬クラブの方とは焼肉に連れて行ってもらうほどの仲に。

☆安村遼亮

学部：総合理系

好きな馬：ディアード



陽気でノリのいい関西人。

見た目とは裏腹に料理が得意。彼の炒飯は絶品である。

☆藤野太朗

学部：獣医

好きな馬：ドラゴン



抜群のスタイルの持ち主で彼の鎧の長さは部で1番。ドラゴンをこよなく愛しており、人を襲っているドラゴンをもニヤニヤしながら見てる。安藏とバチバチ。

☆渡部千遥

学部：獣医

好きな馬：カノン



カノン一筋。お先に未来の後輩に伝えておくと、めちゃくちゃいい人なので怖がらないように。今年のクリスマスイブは手術室で過ごした。復帰が待ち遠しい。

☆妹尾咲絵子

学部：総合理系

好きな馬：あひる



黒髪ロングの綺麗な弊学年のゆるふわ枠。どこことなく不思議な空気を纏っている。

引っ越して部室から遠ざかるDM

☆平田慧

学部：総合文系

好きな馬:ブルー



ブルーを愛しブルーに愛される女。髪もブルーに染めている。実は京都弁を華麗に操るはんなり JD。馬術経験者。

☆奥谷桃佳

学部：総合理系

好きな馬：しゅがー



乗馬に関してセンス抜群。一見つんつんしてるように見せかけて中身は意外とふわふわ。シュガーをこよなく愛している。



## 現役部員名簿

氏名	学部	役職
3年目		
石田隆悟	理学部	主務、運営
井上芽依	医学部	運営
植田咲喜	獣医学部	主将、馬匹
北出右京	理学部	作業
駒田智美	獣医学部	運営長
坂本信仁	理学部	馬匹
関貴生	教育学部	作業
曾和祐稀	農学部	馬匹
武井陸	理学部	運営
沼田栄花	獣医学部	馬匹
早貸虎之介	理学部	作業
藤村良汰	農学部	作業
安田理紗	獣医学部	馬匹
山中竜馬	理学部	作業
若林壮真	文学部	会計長
2年目		
青木貴哉	水産学部	作業
阿部悠和	理学部	作業長
井嶋南里	農学部	運営
内田悠人	理学部	作業
江口柚希	理学部	運営
戎真由香	農学部	運営
小久保奈於	工学部	運営
小谷慧	工学部	作業
高橋知里	医学部	運営
筒井千香子	看護栄養学	会計

	部(天使大 学)	
林朋花	経済学部	運営
堀川壮琉	獣医学部	作業
水木優之介	獣医学部	副将、馬匹 長
宮下祥馬	水産学部	作業
渡辺晴菜	獣医学部	運営
1年目		
安藏舞子	法学部	運営
石川勇人	水産学部	運営
奥谷桃佳	総合理系	会計
小野塚絢美	獣医学部	馬匹
鎌倉壮大郎	総合理系	馬匹
鮫ノ口航太	総合理系	作業
妹尾咲絵子	総合理系	運営
田中侑	工学部	運営
長安杏佳	総合理系	運営
平田慧	総合文系	運営
藤野太朗	獣医学部	馬匹
堀悠太郎	医学部(札幌医科大学)	作業
安村遼亮	総合理系	作業
渡部千遥	獣医学部	会計

---

# 後援会会報

---

## 2021年北大馬術部後援会報告

町田 雅人

今年もコロナ禍のため道馬連主催の5大会のうち、開催できたのは3大会のみであった。最後の秋季大会に私は出かけたものの、あいにく北大の選手は不出場だったので、ついに昨シーズンは現役諸君の試合での騎乗ぶりを見ずに終わってしまった。したがって、馬術部の状況は伝聞や推測によるしかないが、まだまだ大変なのだろうと思っています。

2021年は、波はあったものの、新型コロナウイルスの流行が収まる兆しは見えず、後援会としての行事等は、2020年に引き続き、実施を自粛せざるをえない年でした。

このような状況下においても、多くの会員の皆様に会費を納入頂き、この場を借りまして、御礼申し上げます。

2021年の現役への援助としては、散水機の設置費用及び部報発行費用として、76万円の補助を行いました。(内訳：散水機60万円、部報16万) 散水機設置については、2019年、2020年の全日学総合に出場、完走を果たした主力馬である北暁号の放牧中の不慮の事故を今後防止する観点から馬場状態の改善を目的に設置された設備です。

今後も、後援会員の皆様から納入いただいた会費を有効に現役部員の支援に活用すべく、現役部員と事前に援助内容について相談しながら進めていく予定です。今後は、今回のような設備的な支援を行っていく予定です。

今後の現役支援についてご意見がありましたら、ぜひ、後援会宛にご連絡お願いいたします。

(後援会メールアドレス：[hokudai.bajutsubu.kouenkai@gmail.com](mailto:hokudai.bajutsubu.kouenkai@gmail.com))

まだまだ、コロナ禍の終息は見えない状況ではありますが、引き続き後援会活動にご支援、ご協力をお願い致します。

一以上一

## “終わりを全うする”部活動

会長 市川 瑞彦

今年もコロナ禍のため道馬連主催の5大会のうち、開催できたのは3大会のみであった。最後の秋季大会に私は出かけたものの、あいにく北大の選手は不出場だったので、ついに昨シーズンは現役諸君の試合での騎乗ぶりを見ずに終わってしまった。したがって、馬術部の状況は伝聞や推測によるしかないが、まだまだ大変なのだろうと思っています。

馬術部からの情報によると、繋養馬は11頭、部員数は1、2、3学生ともほぼ15人前後で、総数46人とのこと（2022年1月現在）。何といても「数は力」なので、部員数が多いのはそれ自体歓迎すべきことで心強い限りですが、同時に克服しなければならない問題も多くあるように思います。

一つは、部員数に対して馬の頭数が少ないことでしょう。おそらく、望ましい繋養馬数：部員数は1：3程度だろうと思われませんが、現在は1：4になっている。これは部が数年前に陥った財政難のために繋養馬の削減を余儀なくされましたが、その後急速に部員数が増加したことによると思われます。新馬調教にかかる時間と労力を考えると、残念ながら、繋養馬数を急速に増やすことは極めて困難です。

二つ目の問題は、上の数字には表れていないが、引退した4年生の数（卒部生数）である。下級生から上級生になるにつれて部員数が減っていくピラミッド型の部員構成は普通の傾向だと思われませんが、最終的に一定の卒部生がいることが是非必要と思われまふ。北大の場合就職先が道外企業のことが多く、卒業後部と関わりをもって指導・助言をいただくことは難しい。しかし、幸いに、卒部後大学院に残って2年間引き続き在札するOBはかなりいる。勿論、個人個人事情があるでしょうが、一定の数の卒部生がいれば新馬調教の手伝いとか、日常練習での部員が乗った後の乗り直しとかに貢献していただける人もより多く出てくるのが期待できるでしょう。

近年卒部生の数が多くないことは、残念に思っています。就職にあたって部活動の経験は採用会社側にとって評価するポイントになると思われまふが、最後まで辞めずに続けたか（終わりを全うしたか）、途中でやめたか（個人的な事情もあるでしょうが）では雲泥の差であろう。私が採用担当ならそう考える。是非最後まで続けてほしいと思います。

繋養馬を増やすこと（そして優秀な競技馬を増やす）とか、部員の技術レベルを上げるとか、卒部生を増やすこととかは、まさに“言うに安く行うに難し”で、いずれも簡単に解決できるわけではない。そして、いずれもかなりの時間がかかるでしょう。しかし、これらの点が解決されないと、安定的で充実した部活動を維持していけないのも確かではないだろうか。現役部員とのコミュニケーションは、我々の世代では限界があります。ここはひとつ、監督を中心として若いOB・現役が協力して立て直していくことを期待しています。

---

## 編集後記

---

はじめに、大幅に発行が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。

前部報に引き続き、後援会にメールアドレスをご登録いただいている皆様にはメールにて、いただいていない皆様と、紙版での部報の郵送を希望されている方には郵送にて本部報を送付いたします。メールにて本部報を送信いたしました皆様の中で、紙版での部報の郵送を希望される場合は、大変お手数ですがこちらの部報を送付いたしましたメールの本文をお読みいただき、お知らせくださいますようお願い申し上げます。

本年度、特に上半期は大会が中止となったりオンラインでの開催となるなど、引き続き新型コロナウイルスの影響をうけた一年となりました。朝練はグループ分けをして、感染対策を行っていました。騎乗していない時間も技術向上を目指してどのように工夫していくかが求められた一年だったように思います。また、本年度は新馬も多く入厩し、厩舎が益々賑やかになりました。

原稿を書いてくださったOBの皆様、現役の方々に心より感謝申し上げます。2022年度の部報も只今製作中です。新馬も入厩し、益々賑やかになった部の様子をお届けできればと思います。難しい状況が続きますが、こうして活動ができることに感謝しながら、部員一同精進して参りたいと思います。私たちが日々活動していくことができているのは、ひとえに、OBの皆様がいつも支えてくださっているからこそだと思っています。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。今後とも北大馬術部をどうぞよろしく願いいたします。最後までお読みいただきありがとうございました。

北海道大学馬術部部報 第65号 令和4年 11月発行
編集者 北海道大学馬術部部報担当 江口柚希
印刷所 ひまわり印刷株式会社
〒065-0030 札幌市東区北30条東6丁目2-1
発行所 北海道大学馬術部
〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目
TEX/FAX 011-737-1626
銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731
表紙デザイン 井上 芽依

